

げんてん

(日本医科大学第一内科学教室・同窓会年報)

第十七号

(2005年度)

付 日本医科大学第一内科学教室業績集
(2005年4月～2006年3月)

付 日本医科大学第一内科同窓会名簿

日本医科大学第一内科学教室・同窓会発行

目 次

巻頭言	
「退職の年に」	高野照夫…… 1
「げんてん巻頭言」	大林完二…… 3
I. 海外留学者の帰国報告	
留学報告	上村竜太…… 4
Cedars-Sinai Medical Center	大野則彦…… 5
II. 学会賞受賞	
日本心不全学会 YIA 優秀研究賞を受賞して	淀川顕司…… 6
TCTとAHAから賞を受けました	高野仁司…… 7
Asaian-Pacific Atrial Symposium Best Poster Awardを受賞して	岩崎雄樹…… 8
III. OB 近況報告	
当院における医師勉強会のあり方	小川剛…… 9
日本医科大学付属病院第一内科「回想と現況」	鈴木荘太郎……11
筑波大学附属病院の現状と医療改革への取り組み	山口巖……13
済生会波崎診療所開設のお知らせと近況報告	長野具雄……16
近況報告(From Cell to ACLS)	村松光……17
近況報告	北山浩気……19
IV. 追悼文	
中山孝雄先生を悼む	山崎登志雄……20
市川章君の思い出	山崎登志雄……21
酒井義雄先生を偲んで	荒牧琢己……22
故佐々木美典先生のご逝去を悼んで	平山悦之……23
V. 第一内科学教室、同窓会(げんてん会)記録	……24
VI. 医局員勤務表	……26
VII. CC・CPC	……28
VIII. 学位取得者	……29
IX. 2005年度研究業績	……30
X. 同窓会会員名簿	……52
XI. 現役医員名簿	……65
XII. 編集後記	……72

退職の年に

平成18年11月25日、誕生日の朝3時に目が覚めた。

げんてん会の日に、私の我儘で誕生会も一緒にやってもらうことになった。と、思っているとなかなか寝つけない。テレビ10チャンネルをつけてみると、本年の最大の問題である教育問題、特にいじめについて、教育者、代議士や知識人達が口角に泡をとぼして激論をかわしていた。わが国は耐震設計偽造や郵政事業改革など、多くの問題を抜本的に見直さなければならない状況のようだ。

さらに、4月の医療改定では仁術の世界が失せ、医療産業へと転換させられるような状態だ。病院はDPCによる入院日短縮、7:1看護の導入が必要となり、教育面では研修医制が導入され、入局医師の減少など各病院もさまざまな問題をかかえている。豊かさについて、‘特に心の豊かさ’を再考する時であると思う。「げんてんに帰れ」だ、と再び眠りについた。

げんてん会においては、中山孝雄先生（昭28年卒）、酒井義雄先生（昭35年卒）、市川章先生（昭35年卒）、毛利龍彦先生（昭42年卒）、それから佐々木美典先生（昭和60年卒）が逝去された。心から哀悼の意を表します。

今年の現役の活躍といえば、日本循環器学会理事に水野杏一教授が就任したこと、さらに加藤貴雄教授が第26回ホルター心電図研究会を6月に、第202回日本循環器学会関東甲信越地方会を12月に主催した。また同学会地方会の評議員に、安武正弘助教授と本間博、福間長知、佐藤直樹の各講師が就任した。来年は、岸田浩教授が日本心臓リハビリテーション学会を主催する。特別講演の演者として元宇宙飛行士の毛利衛氏を招聘すると聞いている。盛大な会になるであろうと期待している。2年後になるが、田中啓治教授も日本集中治療医学会関東甲信越地方会を主催することが決定した。評議員には安武正弘助教授、佐藤直樹講師が選出された。

淀川顕司医員が、日本心不全学会 YIA(Young Investor Award)を、高野仁司医員はアメリカで2つの賞を続けて受賞した。おめでとう。TCT(Transcatheter Cardiovascular Therapeutics) Scholarship と American Heart Association Clinical Science Award である。また、岩崎雄樹医員は、Asaian-Pacific Atrial Symposium Best Poster Award を受賞した。若い人たちが頑張っている。

教室の伝統である「内科医は丁寧に診療し、的確な診断に基づき治療をする。診断が確定するまでは、じっと細かく観察し、検査をして診断の裏付けをとり、原因解明した後に治療することを原則とする。」を忠実に守り実行したことが3医局員の受賞につながったと思う。

私が集中治療室にいた昭和52年頃、田中啓二教授、故遠藤助教授、佐々木熙之医員らを中心に、最高峰にあった多くの仲間の医師達と「前進、前進」を合い言葉に、日本医科大学を心臓病のメッカにしようと、昼夜祭日を問わず心一つにして、患者の「いのち」を見まわった。生命を救う喜びや悲しみを味わい、心と肉体の限界までここで費した。以来23年間の生活であった。

その後、第1内科という日本でも最大級の200人の医局員を要する教室の教授に就任した。先輩教授の業績をこえなければならない。教育とは教え子の胸に火をつけることである。それには教師自らが燃えなければならない、と先人から聞いた。ここでも「前進」という言葉が再び繰り返された。表には私の第1内科における職歴と業績を一覧させて頂き

御指導と御協力に感謝いたします。

これらことが「medicine ball」としてげんてん会の会員に引継れるよう祈ります。

学歴・職歴		業績
1970	\`68 日本医科大学卒業	\`72 学位論文 アスピリンエステラーゼと肝疾患
1975	\`74 内科学大学院終了 \`74 米国シーダース サイナイメディカルセンター留学 ~\`76 \`77 集中治療室医局長 \`78 救命救急センター講師	\`77 心臓リハビリテーション \`79 急性心筋梗塞と心不全 ニトログリセリン、ISDNの開発 \`80 CCUとLeison psychiatry 急性心筋梗塞・末梢循環・体液性因子 不整脈治療、ショック、IABP
1980	\`81 助教授	\`83 PTCR (UK) \`84 CCUネットワークの確立 心臓循環器疾患救急医療体制 ドパミン、ドブタミン開発
1985		\`85 ECUM \`86 心臓ペースメーカー、アムリノン、テツパン など強心薬の開発、血栓溶解療法 \`87 PGE1、PGI、顆粒球エラスターゼ 抗不整脈薬の開発 \`88 慢性心不全に対するACE-I、t-PA 糖尿病性血管障害
1990	\`89	\`90 急性心筋梗塞の機械的合併症 急性大動脈解離
	\`91 第一内科教授 (集中治療室)	\`91 α -HAMP 生理と治療、LP(a) 不安定狭心症の治療 \`93 PTCA、トロポニンT(迅速診断キット) \`94 エンドテリンの役割 \`95 PCPS
1995	\`98 東京都CCU連絡協議会会長 \`99 第一内科主任教授	
2000		\`01 急性肺血栓塞栓症 \`03 H-FABP による急性心筋梗塞診断 \`04 血管再生治療(末梢動脈疾患、難治性心不全) N-terminal BNP ACLS
2005	\`07 定年退職	

「げんてん」巻頭言

日本医大同窓会副会長／大林内科医院／大林完二（昭36年卒）

今年は本学創立130周年記念の年であり、アクションプラン21・千駄木地区再開発の建築も本格的に始まった。1～2年もすれば付属病院の工事も始まるはずである。狭い土地で現病院を少しずつ解体しながらの建て替えて、工事期間中、病院は手狭になり種々混乱が起こるのは必至で、患者のアメニティーは低下するに違いない。是非、医局の皆さんにお願いしたい事は、こんな時こそインフォームド・コンセントを十分に意識して、患者本位の診療を心掛けてほしいという事である。と言うのは、先日開かれた医療制度改革に関する講演会で、診療に対する患者の不満は「長い待ち時間」と「医師、看護師の説明不足」の二つが最も多く、これらの不満解消に医療側が応えないうちは、政府は診療報酬引き下げをやめないだろうと言う話を聞いたからである。マイナス改定の責任を医療側になすり付ける理不尽で乱暴なこじつけと思う。しかし、待ち時間の短縮は物理的限界があるが、我々の努力次第で確かに説明不足の問題は解決しうる。

最近では、医者と患者の距離は以前に比べ確かにかなり接近して来ていると思うが、両者の信頼関係はきわめて微妙であり理解の及ばない所もかなりある。

以前、ある医師から血圧が上昇傾向にあるからと、楽しみしていたハイキングを中止する様に言われ、納得出来ないで私の診療所を訪れた中年女性がいた。あまり説明もなしに運動を禁じたのは、よもや血圧のほかにも何か重大な病気があるのではないかと、患者は医師の言葉をいろいろに解釈して考え込んでしまったという。運動を禁ずるに足る充分な理由の説明があれば患者も納得して高血圧の治療に励んだであろう。説明が不足した分、誤解が生じ患者を悩ませる事になった。もし、患者を安心させるような言葉を医師がかけていたら、きっと患者の悩みは軽かったか、あるいはなかったかもしれない。改めて医師の言葉の重さを痛感する。

ある大学病院で医師の説明がどれくらい患者に理解されるか調べるため、患者にアンケート調査した所、過半数の患者が理解し難いと答えたという。私の診療所でも大学病院で聞く医師の説明は、専門用語が多過ぎ充分理解出来ないところばす患者も少なくない。患者が理解しようがしまいが、医師が一方向的に話してはいないだろうか。

また、日本医師会の調査では「患者の話をよく聞くか」「患者に敬意を払って接しているか」「質問し易い雰囲気があるか」との問いに、8～9割の医師がyesと答えたのに対し、患者でyesと答えたのは僅か3～4割であった。一般人76%、患者86%、医師91%は「医療者の対応次第で医療訴訟は減る」と答えている。マスコミを賑わす多くの医療訴訟の原点は意外と医師と患者の人間関係の歪みなのかも知れない。

最近マスコミで活躍中の浜松医科大学高田明和名誉教授が、以前、新聞のコラムにこんな文を書いている。「最近では医療技術の進歩により、病気の原因や体の悪いところが、身体的な診察を受ける前から分っている事が多い。それでも患者は医師に聴診器を当ててもらいたいのである。それはプラセボ効果かもしれないが、患者にとっては薬と同じ効果がある」と。

インフォームド・コンセントが叫ばれる様になって久しいが、果たして日常診療にしっかりと根付いて来たと言えるだろうか。もう一度、みんなで患者の側に立って考え直してみてもどうだろうか。

留学報告

第一内科 上村竜太

2003年8月～2006年4月までアメリカ、オハイオ州のシンシナチーに留学していました。シンシナチー大学の病理部で Ashraf 教授のもと虚血性心疾患に対する骨髄幹細胞を用いた細胞治療の基礎研究をしてまいりました。

シンシナチーはシカゴより約500マイル南東で、ケンタッキー州との州境にあります。州境を流れるオハイオ川の北側は広大な丘陵地で、シンシナチーは国内で Queen City と称される美しい自然を合わせ持つ都市です。あらゆる意味で空間的なゆとりある生活環境は、都内の狭い自宅で生活していた我が家族からするとまばゆいものでありました。いつの日にかまたあの様な環境で再び生活ができればいいなと帰国した今でも思っています。またシンシナチーは野球との関わりが深いところで、少し野球に詳しい人ならばシンシナチーレッズという球団名をご存じのことでしょう。1970年代後半に“ビッグレッドマシーン”の異名を持ち、あのヤンキースに対してワールドシリーズで4連勝した歴史もあるチームです。そればかりでなくアメリカで初のプロ野球チーム（その末裔がレッズ）ができた町であり、その歴史から今でもメジャーリーグが最も早く開幕する（Opening day）町でもあります。

私のラボはもともと浅野伍郎先生（日本医大元学長）が先駆者として留学されたところで、いらい第一病理の先生がたで引き継がれていました。この度、浅野先生から高野教授に依頼があり、高野教授より私が適任者として推薦を受けました。入局後から11年のあいだ一貫して臨床医療をしていたので少し悩みましたが、家族（特に妻）からの強い後押しもあり留学を決意しました。

ラボのボスである Ashraf 教授はパキスタン人で、浅野先生とほぼ同じ時期にシンシナチーに留学。研究者としてスタートし、そのまま今の地位まで昇進しています。そのためラボの約半数がアラブ系で、2～4人の中国人、1～2人のアメリカ人と私（日本人）で構成されていました。宗教も生活慣習も違う人々のため、ラボでの人間関係には大変に苦労させられました。また臨床医だった自分が実験研究をするには、様々なトレーニングが必要でした。まずは組織や培養細胞の染色技術を学び、分子生物学的な評価法の技術（ELISA, Western-Blotting, PCR etc）を習得すること。In Vivo ではマウスの心筋梗塞モデルを作成し、心機能の評価を心エコーで行い、特殊染色などで組織学的評価を施行する。実際、これらをコンスタントにこなせるようになるまでに1年以上の月日を要しました。また、我々のラボ全体が実験停止の処分を受けたりして、約2年間も結果のない日々を過ごしていました。“このまま何も出ぬまま留学が終わってしまうかも”と何度も苦悩しましたが、その度に“今できることをやるしかないんだ”と自分に言い聞かせ実験を続けていました。最後の半年頃からはようやく軌道にのり、学会発表や論文掲載が可能となりました。十分満足とはいきませんが、自分としてもそれなりの成果があったと思っています。

その一方で、家族とくに子供達はとても充実した日々を過ごしてきた様です。最初の8か月くらいは殆ど英語もしゃべれませんでしたでしたが、1年もするとクラス（現地校）の友達とテレビゲームをしながら英語で会話しているのには参りました。2年目にはサッカー、バスケ、チアリーダーなどの課外活動にも積極的に参加していたので、親の方も毎日の様に車で送り迎えをしなくてはならない多忙な日々でした。世界の様々な人達の集まりの中に一人の日本人として入り込み、楽しみや役割を共有できる子供らに“たくましさ”の様なものを感じたものです。日本では彼等の生活をあまり気に留めて見たことがなかった私にとって、留学中に家族ともに過ごした時間はとても有意義なものだったと思います。

最後に、留学の機会を与えて下さった浅野元学長と高野教授、留学前に色々なアドバイスを頂いた横山先生、また留学前と後の面倒な手続きに多大な協力をして頂いた平山医局長と秘書の吉田さんに心から感謝を申し上げます。

留学報告

Cedars-Sinai Medical Center

大野則彦

このたび 2003 年 2 月より 2005 年 6 月まで Cedars-Sinai Medical Center Basic EP Research Lab に留学する機会を得ましたので報告させていただきます。

第一内科と Cedars とは数十年來の關係にあり、これまでも多くの先輩諸先生が留学されていたのは周知のことと思います。施設はロサンゼルスとビバリーヒルズの境界に位置し、都会的な雰囲気とカリフォルニアの開放的な雰囲気が共存した環境にあります。街中にあるためキャンパスは広くありませんが、病院は約 1000 床と大きく、UCLA や USC とならびロサンゼルスのベストホスピタルのひとつに挙げられています。キャンパスが狭い分 Basic Research Building は病院に隣接しており、基礎と臨床の交流が活発に行われています。Basic EP Research Lab は私の直屬のポストである Dr. Hrayr S. Karagueuzian、Lab の統括的立場にある Dr. Peng-Sheng Chen、Optical Mapping の第一人者 Dr. Shien-Fong Lin の 3 人の Principal Investigator により運営されており、それぞれの下に fellow が配属され研究を行っています。私は Dr. Karagueuzian の fellow であるため給料や物品の購入などは Dr. K の grant から支払われるのですが、実験を進めるにあたっては Dr. Chen や Dr. Lin からの様々な助言や援助を頂くことが出来ました。Lab の昔からのテーマは細動メカニズムの解明で、その手法として以前は electrical mapping が主流でしたが、近年は optical mapping を用いた実験に重点が置かれるようになって来ました。Optical mapping は細胞内活動電位または細胞内カルシウム電流に感受性のある蛍光色素を注入し、レーザー光を照射し惹起された蛍光波を特殊なフィルターを通してコンピューター解析を行い、活動電位およびカルシウム動態を調べる装置です。私はラットの摘出心を用い解糖系遮断モデルを作成し、自然誘発される心房細動出現時の活動電位およびカルシウム動態の変化を観察しそのメカニズムについて研究を行いました。実験は私の怠惰な性格もあってなかなか結果を出せないまま時間ばかりが過ぎてしまいましたが、最終的にはカルシウム過負荷による EAD がこのモデルにおける心房細動出現のメカニズムであると結論付けることができました。

アメリカには様々な都市に第一内科からも多くの先生が留学していますが、ロサンゼルスは気候がよく大都市であること、全米最大とっていい日系コミュニティーが発達していることからほとんど不自由のない生活を送ることが出来ました。またフリーウェイが発達していることから、ラスベガスやサンディエゴといった大都市やカリフォルニア、アリゾナ等の国立公園へのアクセスが容易で、アメリカの都会的レジャーと大自然の両方を満喫することが出来ました。

最後になりますが、今回このような貴重な機会をお与えいただきました、高野教授をはじめ第一内科の先生方に深く御礼申し上げます。

第 10 回日本心不全学会学術集会 YIA 優秀研究賞を受賞して

平成 9 年卒業 淀川 顕司

この度は第 10 回日本心不全学会学術集会にて YIA 優秀研究賞を頂くことができ、身に余る光栄であります。発表した演題は「Non-invasive detection of latent cardiac sarcoidosis using signal averaged electrocardiogram」というタイトルで、肺サルコイドーシス患者における潜在性の心筋障害を加算平均心電図を用いて検討したものです。肺サルコイドーシスはもともと予後が比較的良好な疾患ですが、ひとたび心サルコイドーシス（以下心サ症）を合併すると 5 年生存率 40%と非常に予後不良に転じ、その多くは突然死であるとされています。しかしながら心サ症を早期に予知する手段は未だ確立されておりません。心サ症は脚ブロックや房室ブロックの伝導障害で発症する例が多く、それならば伝導障害を鋭敏に反映する加算平均心電図がその早期診断に有用かもしれないと私は考えました。実際加算平均心電図を記録してみると心室遅延電位陽性例が非常に多く、最終的に肺サルコイドーシス 52 例のデータが集まりました。今回はそのデータを BNP、ACE、ホルター心電図での PVC 数とともにまとめたものでありますが、加算平均心電図の真の有用性を証明するには今後かかる症例の長期のフォローアップが必要と考えております。

最後に、発表の機会を与えてくださり、現在論文の御指導を頂いております清野精彦教授に厚く御礼申し上げます。また、アドバイスをいただきました小原俊彦先生、小林義典助教授、加藤貴雄教授、患者様を紹介して下さいました付属病院呼吸器内科の先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

TCT と AHA から賞を受けました

第一内科 高野仁司

伝統ある第一内科の年報である“げんてん”に執筆できるという特権が何よりも名誉であります。とりあえず、そのいきさつの紹介。

TCT とは Transcatheter Cardiovascular Therapeutics の略で、毎年 10 月に Washington で 6 日間に渡って開かれる米国の Interventionalist の学会です。参加者は 15000 人、一般演題数は 600 題で、演題聴講よりむしろライブデモンストレーション等技術の習得がメインの実践的学会です。私が今回授かったのは、TCT Scholarship という若い Interventionalist の支援目的の賞で、一般演題とは別に抄録を募集し上位 3 人を選ぶものです。私の演題内容は、経皮的大動脈弁形成術時に大動脈内バルーンパンピング治療が有用であった症例の紹介でした。発表では、受賞者 3 人が続けて発表し、その後まとめて質問を受ける形式でしたが、質問の殆どは私の演題に対する質問であり、反響は良かった印象を受けました。

次に AHA ですが、American Heart Association の略で毎年 11 月に開かれる米国の Cardiologist の学会で、参加者 50000 人以上の世界最大規模の学会かと思えます。私は Poster Competition の Winner となり、Clinical Science Award を頂きました。演題内容は、冠血流予備能の低下が拡張型心筋症患者の予後規定因子となるというものです。この研究は 1996 年から開始しましたが、当初は冠血流予備能と他のパラメーターとの相関が全く得られずどこにも発表できるものではありませんでした。再検討した結果予後と相関することが判明し、10 年越しの研究の未ようやく陽の目を見ることができました。

私は第一内科では心臓カテーテル班に属し、その最後列で細々と治療・研究をして参りました。その中で常日頃感じていることは、心臓カテーテルを受けた一人ひとりの患者にこれだけ時間をかけて真剣に検討するカテーテルチームが他にあるだろうか？ということです。これは、先輩方が築き上げ培ってきた伝統であり、大切にしていくなすべきものと認識しております。その肥沃な土壌には今後も数々の成果が実を結んでいくはずで、私の頂いた今回の賞もその中で産まれるべくして産まれたものであると思います。たまたま、その受賞者が私であった訳で、今後の Colleagues の励みになって頂けたらと考えています。

とはいえ、賞を貰うなどということに慣れていない私には、厄年を前に恐ろしいことばかりが起こる一年でした。

Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium の Best Poster Award を受賞して

岩崎雄樹

Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium は昨年韓国のソウルで第一回が開催された、アジアの国々を中心に心房細動に関連するテーマについて基礎研究から臨床研究まで広く議論しあう国際学会である。今年で第二回となり 11 月 23 日から 25 日までの 3 日間東京の赤坂プリンスホテルで開催された。第一内科からは、早川弘一先生が名誉会長を、加藤貴雄先生・新博次先生も評議員、小林義典先生が事務局長を勤められ、また平山悦之先生・宮内靖史先生もシンポジウムで発表され、第一内科不整脈グループ総力をあげて望んだ国際学会といえる。

今回、受賞した Best Poster Award であるが、ポスター演題は約 200 題の発表があり、そのうち 7 演題が選ばれ、最終日に審査員の前でプレゼンテーションと質疑応答を行い順位が決定するものであった。英語でのプレゼンテーションは、日本循環器学会や国際学会で話す機会が増えたとはいえ、いまだに苦手意識が非常に強く何回も発表の練習と質疑応答のイメトレをした。その努力の甲斐があつてか(?) Best Award を頂戴することができた。

今回は、心臓血管研究所・主任研究員の山下武志先生のご指導の下で行った実験である「ストレスと心房細動」という基礎研究を発表した。内科学 Harrison の教科書の心房細動の項目の一段落目に、ストレスは心房細動の危険因子であることが記載されている。これは多くの臨床医が経験し認識していることであるが、その機序については不明な部分が多い。そこでストレスに暴露されると血中に増加するホルモンであるグルココルチコイドに注目し、ラットを用いてグルココルチコイド投与による、心筋イオンチャネルの分子生物学的変化と心房細動源性基質との関連性を研究した。グルココルチコイド投与によって、カリウムチャネルの一種である IKur をコードしている遺伝子の Kv1.5 mRNA がアップレギュレーションし、Kv1.5 蛋白も増加させ、IKur の電流密度も増加させる結果、心房筋有効不応期が短縮するという実験結果が得られた。ランゲンドルフ灌流心での心臓電気生理検査では心房細動が誘発されることも確認された。興味深いことにこれらの現象は 6 時間をピークに認められ、12 時間後には心房細動が誘発されなくなるという一過性の変化を示した。この事実は、ステロイド長期服用患者や Cushing 症候群患者で心房細動の発症リスクが増加しないことを説明できるものである。短時間に急速に増加するグルココルチコイド(集中的なストレス)が心房細動発症に関与していると考えられた。このように、日常診療で起きている現象を基礎実験で示すという臨床に直結した実験は、臨床的意義が強く臨床医として行う実験として非常に面白くやりがいがある。

今回の学会に参加して、心房細動という分野を基礎から臨床まで一通り見て感じたことは、基礎分野には詳細かつ緻密に検討されたすばらしい研究発表が数多く見られが、一方で最近の基礎研究がより専門化・細分化される反面、一人歩きしている感がある。医学研究の成果が最終的に患者に還元されるべきものであるならば、基礎研究と臨床研究をうまく融合すべく、臨床へのフィードバックの橋渡しとなる基礎研究領域が必要なのでは考える。現実的には、多忙な臨床の傍らで基礎実験を行うことは時間的にも精神的にも厳しい環境であるが、日常診療の中にこそ医学研究の本質が隠れているはずであり、今後も第一内科で外来・病棟で実際に患者を診なければ培い得ないセンスを磨き、逆に基礎研究の方向性を示せるような研究を行いたいと考えている。

当院における医師勉強会のあり方

博慈会記念総合病院

小川 剛

私は昭和43年第1内科に入局した。その後昭和51年シーダース・サイナイMC（米国ロスアンジェルス市）、昭和53年筑波大学、昭和61年ワシントン大学（米国セントルイス市）、平成4年都立駒込病院、平成6年より博慈会記念総合病院に勤務しており、いろいろな施設を経験できた。当院はそれ以後第1内科派遣病院の1つとなり、優秀な医局員を派遣していただいている。ここでは今後の派遣医局員が当院を理解しやすいように当院における医師勉強会のあり方について紹介する。

卒業当時我が国の医学・医療に関しては、Mモード心エコー図、CT、CAG、ヒス束心電図の臨床応用の黎明期にあった。約40年後 Bモード心エコー図・カラードップラー法、3次元CT、PCI、RFCA、MRI・MRAが広く普及し、隔世の感がある。医師を始めとする病院職員は、常にその時々自分の専門領域以外も含めた最新の知識・技術を修得する必要があることを痛感させられる。（教育の重要性）又当時の医療界は大学医局を頂点とし、その下に一般病院、診療所が縁故的關係で系列化され、病院内においては医師を頂点としてその下に看護婦などが業務を行っていた。即ち大学医局を頂点とするピラミッド体制であった。約40年後、大学を含めて各医療施設はそれぞれ機能分化、役割分担を迫られ、各病院職員もそれぞれの専門領域において医師と対等に業務を行うことが求められており、その結果、院内（チーム医療のため）院外（地域完結型医療のため）における密接な連携が最も重要かつ必要な時代となった（連携の重要性）。Keywordsは教育、連携である。

私は平成7年に院長職を委嘱されたが、当時より教育、連携の重要性を認識し、対応を考えてきた。まず「内科系症例検討会」（内科系6科、放射線科、小児科を含む）、その後「救急症例検討会」（全科における救急患者を対象とする）ならびに「死因検討会・CPC」（医師、コメディカルスタッフを中心として、年3、4回）を、さらに平成17年からは「外科系症例検討会」（外科系9科を含む）を開催している。約1年前よりは上記3症例検討会を同時に開催して医師全員が参加しやすくし、さらにコメディカルスタッフにも参加を呼びかけている。又年数回は各「症例検討会」「死因検討会・CPC」の開催時間を遅らせて地域開業医師が参加しやすいようにした。これらにより医師を始めとする各病院職員が最新の医学・医療情報を修得しやすくし、さらに医局各科、院内各職員、地域各施設間の垣根を取り除き、より密接な連携ができる様に心がけている。

平成10年よりは地域医療水準の向上、ならびにより密接な地域医療連携を目的として「足立循環器フォーラム」を設立した。足立区内の循環器科を標榜している5病院の循環器専門医ならびに循環器疾患に積極的な開業医師計15名を幹事とし、5グループに分け、順番に当番幹事になり、年3回勉強会を開催している。平成18年11月に開かれた第6回本会はコメディカルスタッフのための会としたが、参加者は医師20名、コメディカルスタッフ69名であり、盛会であった。

以上当院における勉強会のあり方について紹介した。今後も医学・医療水準を高め、教育病院としてふさわしい病院に育てていきたい。

付記1：当院は財団法人博慈会の1施設であり、その他の関連施設としては老人病研究所・同附属病院（156床）、産院ソレイユ（32床）、腎クリニック（40ベッド）、府中恵仁会病院、高等看護学院がある。これらの施設を中心とした「合同医学集談会」が毎年開催され、本年は25回目を迎えた。平成10年より地域連携をより緊密化するために病診連携セッションを設けている。

付記2：当院は日本内科学会教育関連病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設となっており、その他多くの診療科においても教育（又は教育関連）病院に指定されている。また当院は厚生労働省指定臨床研修病院であり、研修医（定員2名）は平成18年度は1名、平成19年度は2名の予定である。

付記3：当院循環器内科においては毎日8：30 a mよりモーニングカンファレンス（医師、看護師、薬剤師などによる）を、毎週金曜日7：30 a mより早朝カンファレンス（医師、看護師長による温度板廻診）、5：30 p mより心エコー図カンファレンス（医師、検査技師にて）を行っている。

日本医科大学附属病院第一内科 「回想と現況」

東邦大学医療センター大森病院 病院長付常勤顧問

鈴木 荘太郎

私は 1968 年 3 月に卒業し、インターン制度廃止後の臨床研修医制度の第一期生として第一内科を選択しました。この年度は 5 名の同級生と 41, 42 年卒、卒合せて 3 学年の十数名が同年度に入局となりました。第一内科を選択した理由として、①当時の国民死亡の第一位が脳血管障害、第三位が心疾患であり、内科医としては循環器疾患の習熟が第一選択であると考えました。②木村栄一教授は日本の循環器病学のトップグループに位置していた。③第一内科の指導医体制が質、人数共に最も優れていた。④知り得た限りでは、上記の条件より優れた他の指導施設や学内の医局は無かった。こと等が主な理由であり、同級生や先輩に相談する事無く決定しました。当初より心音班、心カテ班の先生達の指導を受ける機会が得られ、東館 3 階病棟では病棟医長の高沢先生の下でオーベン高田先生および多くの諸先輩の指導を受けて、駆け回っていたことを思い出します。2 年目の秋に高田先生が東根へ派遣中に急性腎炎にて倒れ、急遽応援として東根へ 3 ヶ月派遣され、雪の中で闘病する高田先生との対話を通じて医師としての生き方を考えさせられました。

3 年目には木村教授より虚血性心疾患の症例とデータを収集める指示を頂き、翌年には「中間冠症候群、梗塞前症候群、切迫梗塞、虚血性心疾患の成因・診断・治療、木村栄一編、新宿書房、1972（廃刊）の刊行に携わりました。

1973 年春に退局することを決めた理由としては、①消化管疾患、消化器癌の診断、治療を習得したい、特に世界最高の胃癌診療を国立がんセンターで学びたいと考えたこと。②主治医として CHF (AF) 治療後 2 年目に腎癌の肺転移で亡くなった患者を経験し、入院時に癌を見逃したのではと言われ、悪性腫瘍の診断が不可欠と考えたこと。③4 年目に教授より「 β -blocker の左心機能に及ぼす影響」のテーマで、栗田先生の指導を受けるようにお話があり、研究を開始すれば①、②を実現することは時間的に困難となり、研究を開始する前に初心を優先することに決心したこと。そして、教授へ循環器の指導を受けたことに感謝し、消化器癌の臨床医として生きていくことを理由に退局を申し出たところ、八幡医局長と奥村教授と話し合う指示を頂き、約 1 ヶ月間の猶予期間を設けました。両先生との懇談において私の考えを理解して頂き、5 月より国立がんセンター消化器内視鏡部の門を叩きました。当時の崎田隆夫内視鏡部長ならびに石川七郎病院長の面接では、当時がんセンターの制度には無い個人研修を認めて頂き、後期レジデント制は 3 月で締め切られたので無給研修生として承認されました。6 ヶ月毎の研修評価により継続され、二年目には非常勤、3 年目には常勤職になれました。当時は胃カメラからファイバースコープへ移行する時期で、常岡教授が開発された胃ポリープの内視鏡的絞断法を発展させて、がんセンターで開始されていた高周波切除によるポリープ癌の内視鏡治療法の研究に関わる機会に恵まれました。その後、がんセンターのオーベンであった三輪剛先生が 1974 年に東海大の教授に就任され、1976 年に東海大の消化器内科へ移動しました。東海大では消化器内視鏡以外

に総合健診、健康管理（産業医）、診療情報管理などを兼務し、併設された健康科学部の兼担などを行っている内に、1990年に病院管理学へ移籍となり、1997年には東邦大学医学部 病院管理学研究室を担当することになりました。

東邦大学では社会医学の教育、研究を担当することが主とされていましたが、就任早々から大森病院院長補佐、診療録管理センター長さらにリスクマネジメント、クリニカルパス等の委員会の組織化を委ねられました。2004年には大森病院の専任産業医への要請があり、停年2年前でしたが、基礎医学の統廃合と合わせて、病院管理学研究室を公衆衛生学に統合し、教職を辞して病院長顧問となり、現在に至っています。

意図しない内に臨床医として社会医学に長年関わってきた結果、第19期日本学術会議第7部会員に任命され、第20期第2部連携会員として継続して学術会議に関り、わが国の全ての領域に関わる指導的研究者との交流を経験し、「科学者の行動規範」に関する委員を任命されています

停年を迎え振り返りますと、卒後臨床研修医制度が未整備の混乱期であった5年足らずの期間に、第一内科において受けた教育が、その後の臨床、研究、教育において私の基礎となり、その後経験した何れの施設においても自信を持って活動出来たことは、木村栄一先生ならびに指導頂いた諸先輩に改めて感謝の気持ちが湧いてきます。第一内科においては不肖の医局員ですが、当時ご指導頂きました諸先生方には書面を借りまして、改めてお礼申し上げます、近況報告とさせていただきます。

筑波大学附属病院の現状と医療改革への取り組み

筑波大学附属病院 山口 巖

筑波大学附属病院は1976年10月1日に開院し、今年は開院30周年を迎えました。米国留学中に恩師木村栄一先生に命ぜられて1977年10月に赴任しましたので、病院の歴史と共に歩んできたこととなります。茨城県内におられた「げんてん会」の田崎次男、高澤登四男、八田貞人、福田昇、笠井源吾、岡本進、宗像純司、毛利龍彦諸先輩は常に身近に感じる存在であり大変お世話になり度々励ましの言葉をかけていただいておりますことに改めて感謝します。

6年間は医学部5年の教育担当の立場にありましたが、附属病院の執行部入りしたきっかけは、平成11年本院で立て続けに発生した医療事故にありました。急遽卒後臨床研修部長を命ぜられて、レジデントの教育管理の強化と対策組織作りになり、当時は連日徹夜の有様でマスコミ対応に追われたものです。

2003年4月より附属病院長を務めることになりまして、国立大学独法化という変革にも1年間の準備期間を経て立ち会いました。その間3つの問題点の解決を目指しておりました。第一に国立大学病院経営を赤字から黒字に変えること、第二は附属病院の再開発計画をスタートさせること、第三に医療事故の抑制・防止の徹底を図ることです。特に最後のポイントは医療人特に若い医師のプライドを回復させることに不可欠であり、医療人が社会からの尊敬を維持するには当然のこととして日常生活習慣からの教育が必要になります。幸い当院は人材に恵まれ、様々な経験の積み重ねから職員一丸となって目標に向かっていくことを実感しています。「げんてん会」より与えられましたこの機会に再開発を中心とした筑波大学附属病院の現状を述べることにいたします。

高度に専門化された（臓器別診療グループ制）統合的チーム診療の体制の確立・維持、臨床医の育成、高度医療の提供を使命として、また特定機能病院としては高度医療に関する開発・評価及び研修を行うとともに、他の医療機関と緊密な連携を図るよう努めているところです。職員に対するこれらの使命感の徹底と目的達成のために様々な新機軸の導入や試みがありました。その一例は開院当初から導入されたレジデント制であり、従来の過度に専門化された医師の養成体制を見直し、卒後初期の幅広い研修を基にして、優れた臨床能力を備えた医師を養成するために6年間の一貫教育（ジュニア、シニア、チーフの各コース2年間）を実施する卒後臨床研修システムでした。卒後教育について包括的なコーディネートを行うため、昭和63年に国立大学としては全国で初めて専任教員が配置され（卒後臨床研修部）、平成16年総合臨床教育センターとして機能を拡大しながら独創性を維持しています。

近年の高度先進医療においては、医療技術の選択肢も増加し、診断法から治療法に到る過程も単純ではありません。医療事故の完全防止を図り、医療全般に亘るチェック機能の充実により患者やその家族・関係者の十分な理解が得られることを最大の目的として、平成14年には臨床医療管理部が設置されました。これらの部局で行われる情報収集、企画、実行の経緯は、平成11年に認定を受けた日本医療機能評価機構（平成16年に更新）、平成16年認証を取得したISO9001・2000のチェック方式によって厳しく評価され、常動的に改善・進展するシステムが構築されています。しかし、このような評価システムへの対応の一方で2年毎に行われる医療費の削減政策と国立大学病院に対する人件費の抑制（職員の削減）による大学病院職員の労働条件が厳しくなっている現実にはどのように立ち向かうかが、今後の病院運営のポイントとなります。

1. 病院再開発について

国立大学独法化により第1期中期目標・中期計画が定められ、附属病院は「先端医療や地域医療に対応するため、附属病院の施設設備の整備を図るとともに、国の財政措置の状況を踏まえ、大学用地内での再開発計画の推進を図る」と、明記されています。建物の現況は、建設から概ね30年を経過し、病院全体のインフラの老朽化は回避し難いものがあり、より良い医療環境・新しい医療技術の実現と高度先

進医療の充実を図り、IT化の推進等に対応すべく、再開発は緊急な課題となっていました。将来の医学教育、臨床研究、そしてあるべき姿の医療を実現させるため、これらの状況に基づき、50年先までを見越した医療・医学の変革に対応できる柔軟な再開発計画が始まりました。再開発に対するわれわれの構想を実現させるため、病床数は800床を保ちつつ、現在とほぼ同規模の病棟の建設が予定されており、国立大学病院としては初めてPFI方式による運営が進められようとしています。

2. 病院の経営強化（病院収入の安定的確保及び増収対策）

病床稼働率の向上に向けた対策。病床稼働率は、その地域社会の要求に応え、さらに社会的存在を問われる重要な指標であり、病院経営における安定化の重要な指標でもあります。病院の経営基盤の強化のためにも、第1期中期目標・中期計画を文科省に提出し、その期間中に90%を達成しなければなりません。これらの目標達成のためには、各診療グループ長に対して、診療グループが自ら設定した病床稼働率の達成に向けた努力目標を推進し、さらに夜間救急外来患者の入院受入体制を整備し、看護部の最大限ともいえる協力を得て、いずれも当初の目標を達成することができました。

3. 卒後教育について：総合臨床教育センターの設置

本院は昭和63年に国立大学としては全国で初めて卒後臨床研修部を設置して専任教員を置いたことは前述しましたが、さらに平成16年度に臨床教育（卒前・卒後・生涯一貫教育、職員の研修・訓練、生涯教育、地域教育など）を包括的にコーディネートする部門として総合臨床教育センターを設置しました。優れた研修医を多数採用して質の高い研修を行うためには、卒前教育との連携、研修医の直接指導、関連病院を含めたFD（Faculty Development）を含めて研修体制を強化していくことが要求されます。

また、大学病院では、職種ごとに教育・訓練が行われていますが、例えば、心肺蘇生法、安全対策、コミュニケーション、チーム医療、インフォームドコンセントなどはすべての職種に必要な教育であり、質の高い医療を提供するためには、全体的な視点から全ての職種の教育を統括する部門の設置が求められます。

さらに、地域への貢献はこれからの大学に求められる重要な役割ですが、知的資源の提供として、医療関係者の生涯教育、一般住民への啓発活動などを担当することで、特定機能病院として地域における医療のレベルの向上に貢献していくことが求められています。

本来、卒前教育・卒後教育・生涯教育は連続したものであり、例えばシミュレーターなどの医学教育資源を一括して整備・保管し、希望者がいつでも利用できる体制を整備するなど、臨床教育の統一した視点から教育体制を確立していくべきものです。このような要求にいち早く応え、附属病院が担うべき臨床教育について体系的なコーディネートを行う部門が、総合臨床教育センターです。

4. 病院組織の見直し

①分野別のスペシャリストの養成。病院運営に精通した専門的知識を有する事務職員の養成が急務となっているため、今後は、職員各自の業務内容に応じた専門的知識を習得させ、病院診療支援職員として分野別のスペシャリストの養成は重要課題となります。

*分野別スペシャリスト例

- 〇〇病棟支援職員（医事課の入院担当職員）
- 病態栄養支援職員（医事課栄養管理室管理栄養士）
- 物流支援職員（企画管理課用度係職員）
- 臨床教育支援職員（総務課学事係）

②法人化業務に対応した事務組織の再構築（経営戦略室、地域医療連携センター）。大学病院を取り巻く社会環境は、国立大学法人化や医療制度改革に関連して変革が求められており、事務体制として、その時々々の要請に迅速かつ適切に対応していくための見直しが求められています。変革に対応する事務組織として、病院事務の特殊性を基に集約するとともに、特に充実した対応が求められる経営企画、

安全管理、地域連携等に対応できる機能別事務体制を早急に整備します。本院では、病院の経営基盤を確立し、経営戦略等の検討を効率的に推進するため、経営戦略室を設置し事務職員を配置しています。さらに、地域医療連携センターを平成16年7月に設置し、医事課外来担当の職員を配置しました。今後は、前述の実態から病院総務部3課（総務課、企画管理課及び医事課）のそれぞれの所掌事務に応じた再編を検討していきたいと考えています。

③栄養サポートチーム（NST）の整備。21世紀は、社会的・経済的変化及び少子化の一層の進行により、医療の内容と環境も大きな変化が求められています。そのような時代において栄養管理の知識と技術は、医療費の有効利用、患者QOLの向上および増加しつつある生活習慣病の予防等の観点から、医療における重要な基本事項のひとつとして認識されつつあります。高度な臨床栄養管理を実施するためにはチーム医療が必要であり、管理栄養士、医師、看護師、その他の医療従事者で栄養サポートチーム（NST）を整備し患者及び家族等に対し栄養相談、指導を実施すると共に、栄養管理に関する情報とサービスの提供を行っていくものです。

④医療の安全に関する組織の検討（臨床医療管理室）。医療の安全を推進する体制として、平成14年度に臨床医療管理部を設置するなど効率的な組織体制を整備してきましたが、今後は、各診療グループ、部門のリスクマネージャーの機能を強化し充実を図りつつ、既設の感染管理室と連携して医療の安全を推進する情報収集と伝達体制を迅速かつ先進的に整備する方策を検討していくこととしています。

5. 高度先進医療について

筑波大学附属病院と人間総合科学研究科基礎・臨床・社会医学系が共同で再生医療を診療に適性に生かすため「Translational Research Center」を病院に置き、

「つくば次世代医療統合センター」が平成18年10月開設されました。これは、筑波大学周辺の諸研究施設や学内の先進的な基礎医学研究を臨床に迅速かつ有効に役立てるための総合的構想であり、これには、未来医療開発部門や疾病予防・ライフスタイル研究部門などが設置されます。病院の再開発計画とリンクし、附属病院と人間総合科学研究科との連携を促進する新構想です。また、筑波大学の前身である教育大としての特色を活かし、少年期からの健康医学教育を重視し、将来につながる国民衛生の発展に寄与することも本構想の重要な部分をなしており、総合臨床教育センターの活動の一翼を担うものです。

6. 病院内の他の診療科や地域医療機関との連携強化について

本院は国立大学附属病院として国民への高度先進医療の提供のみならず、茨城県内の医療福祉の中核機関としての役割を担うとともに茨城県委託事業として、平成17年4月には、県内の難病患者等の日常生活における相談・支援、地域交流活動の促進を行う拠点として茨城県難病相談・支援センターが、さらに平成18年4月には、県の医師確保総合対策事業の一環として、地域医療の特性や魅力を十分に伝え、将来地域医療に従事する医師を数多く養成するために、指導医を地域の診療所に派遣する地域医療研修ステーション事業の委託を受けています。茨城県医師確保対策協議会、循環器疾患に関する検討会、成人病登録・評価部会（地域がん登録事業等）には本院教員が参画する他、医師の育成、医療対策、がん・生活習慣病など幅広い事項について県保健福祉部との定期的な協議が行われ、さらに茨城県病院事業管理者及び県立3病院との定期懇談会や知事との意見交換を通して県の医療対策や地域医療の促進、県立病院運営への協力が図られています。

筑波大学はその起源を100年以上に遡ることができますが、現在も附属学校が存在によって示されているように実は身障者教育から発祥したことはあまり知られていないようです。この伝統的医療教育の歴史と新しい医学の30年の歴史を背景に、明日を拓く本院の医療教育、研究の場に相応しい新棟建設、最新設備導入の気運が高まりつつあります。

済生会波崎診療所開設のお知らせと近況報告

神栖済生会病院副院長
済生会波崎診療所所長 長野具雄

神栖済生会病院への移転に伴い昨年3月以来閉院となっていました波崎済生病院跡地に済生会波崎診療所を開設することになりました。旧病院と新病院は約20km離れていて、波崎地区の患者さんには送迎バスを利用して通院していただくなど不都合を強いていましたが、このたび、神栖市と地域住民の要望に応える形で診療を再開いたしました。平成18年8月3日の診療開始に先立ち、7月29日開所式が行われ、式典には神栖市長、茨城県済生会支部業務担当理事をはじめ近隣の医療機関、老人施設関係者、地域住民の方々約120名に参加していただきました。現在、診療科は内科、外科、泌尿器科のみで診療日数も週3日と十分とは言えない診療体制ですが、住民のニーズに応え、より良い医療を提供できるように取り組んでいきたいと思っております。

済生会という組織については私も当院に着任するまでよく知りませんでした。ご存知でない方もおられるかと思っておりますので簡単に説明いたします。済生会は明治44年5月30日、明治天皇の「医療を受けることができないで困っている人達に施業救療の途を講ずるように」というご趣旨の済生勅語によって創立されて以来、保健、医療、福祉の充実、発展をめざし、数多くの事業を行っています。寛仁親王殿下を総裁にいただき、東京に本部、41都道府県に支部を置き、病院、介護老人保健施設、児童福祉施設、訪問看護ステーションなど、350余の施設で約3万9900人の職員が保健、医療、福祉活動に取り組んでいます。

済生会の病院間のつながりは比較的少ないようですが、全国的な組織であることを利用して共同医学研究も行っていて当院も何度か循環器領域で参加いたしました。また、年に一度、学術集会として済生会学会が開催され、例年、当院からも医師、検査技師、看護師各部門から演題を発表しています。

最後になりましたが、当院内科の現況につき報告いたします。当院内科は笠井院長をはじめ、私および第一内科医局からの派遣医師2名の計4名の常勤医と数名の非常勤医師により構成されています。地域の病院であるため、診療範囲は内科の専門分野にとらわれない幅広い領域の診療を担っていますが、このことは内科領域全般における研修あるいは経験を積むことに関してはむしろ好都合であろうと考えています。大学病院では診ることのないような症例に遭遇したり、また、いまだに患者さんから学ぶことも多く、内科学の奥深さを日々実感しています。

当院のある神栖市は東京から2時間弱の距離にあり、自然環境にも恵まれています。また、神栖市は茨城県のなかでも数少ない人口増加地域のひとつであり、地域の中核病院として今後の病院の発展が期待されています。第一内科医局の皆様にはこれからもご協力、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

近況報告 (From Cell to ACLS)

村松 光

昭和 59 年に日本医大卒業後第一内科に入局し、臨床研修後大学院では主に基礎的電気生理の分野で仕事をさせて頂き、大学院卒業後すぐに米国へ留学致しました。その後は郷里山梨の病院で勤務しているものですから、一内の先生方の中に私の記憶は薄いものと思っております。平山医局長より「げんてん」への近況報告寄稿依頼のお手紙を頂き、なにをどのように書いたらよいものかと迷いました。無沙汰三昧の医局は常に敷居(閾値)が高く、賢い一内の先生方への情報となる事などとても書けそうにありませんので、あっさりと割り切り徒然随想風に今までの経緯を羅列してみます。お許し下さい。

一内で不整脈の勉強を契機に、研究棟にあった電気生理セットで微小電極法を用いて心筋虚血の事(抗不整脈薬も含めて)を始めました。当時単離心筋細胞(single cell)での電流解析(膜電位固定)が主流となってきましたので、田舎出身で単純な私はすぐに patch clamp の世界へ没頭してしまいました。心筋梗塞(虚血)早期の致死性不整脈による突然死(今では ACS での VF/Pulseless VT)の発生機序に直接関連した問題です。なにぶん膨大な主題故ごく一部を囁くのがやっとこさという感じでした。脱分極に関与する K^+ conductance と興奮伝導を担う I_{Na} に嵌ったのが、労多くして益少なしの生活(人生)の始まりでした。一内で虚血早期の脱分極の事(ATP channels もさる事乍ら、ATP 枯渇前の超早期には I_{K1} も関与して活動電位が短縮する)をしてから、大学院後半は大分医大(現 大分大学医学部)生理学へ勉強に行かせて頂き、 I_{Na} の続きの研究をしました。虚血時 VF 発生機序は殆どが reentry と考えられていたから、必要条件として虚血下の緩徐伝導に関与する脱分極心筋の residual I_{Na} が β 作用で抑制される機序を調べました。細胞全体膜電位固定が一番困難な I_{Na} 測定に加え、cAMP, A-kinase, A-kinase (Walsh) inhibitor 等高分子を細胞内還流して、リン酸化による抑制効果を生理機能的にブラウン管上で観るのは大変肩が凝りましたし眼も随分悪くしました。当時 I_{Na} 構造と機能の証明は最重要課題でした。毎日実験しても月に数個のデータ収穫率の世界でした。大分滞在中に一内での仕事が AHA に通りましたが、一歳半の長男と家内を連れての New Orleans への旅行は珍道中でした(留学の度胸も付いた様な気がします)。

一内に戻り大学院卒業後数ヶ月間医員助手をただけですが、Texas へ渡りました。拍動する単離洞結節細胞に patch clamp をして I_{Na} 測定しペースメーカー電位への関与を調べた上で、自発的活動電位固定を拍動細胞に対し行う事でした。当時、洞結節には I_{Na} はないと世界で一流の先生方が決めておられた訳ですし、 Na^+ はペースメーカー関連電流には関与なしが定説化していましたので、常時逆風の上更に労多く益少ない洞結節細胞相手の仕事はかなりの極地でした。また Texas 西部(Llano Estacado)は米国内でもとりわけ広大で、地理地質と気象も体で学べました。Texas の仕事も大分医大の仕事もいずれもすぐには論文受理には至らず、ともに 5 年位して(幾回ともなく査読者との間の往復の挙げ句)掲載に至る長い道程でした。

日本に戻ってからは、医局へは不義理にも山梨で心臓とはかけ離れた脳卒中でしかもリハビリ治療の臨床を続けています。数年経った時何か纏めないといけないという気に駆られ、かつて大学で学んだやり方を活用し、論文はなるべく原著を探して読み、年に一つは英文で臨床の論文を書く様に自分のペースメーカーを維持しつつ、既に進行中の medical apoptosis なるべ

く進まない様に家内の手工業で細々とやっています。その内 arrest/asystole になるかもしれませんが。日常診療しつつ山梨医大 (現 山梨大学医学部) 薬理学の研修生の籍を借りて、せめて週一回のセミナーで基礎の重たい英論文を読む要領が低下しない様にして参りました。ここ数年は心臓リハビリの面から臨床生理学的考え方を養おうと努めております。

山梨で早十五年経つ間、世間では VF の機序が渦巻型興奮旋回 (spiral wave reentry) の考え方で目に見えるが如く理解し易くなりました。あれほど複雑多数の渦巻波なら電氣的除細動で心筋全体を一気に脱分極させるのが一番有効 (Class I) なのも頷けます。また最近、成熟哺乳類洞結節細胞にも Na⁺ channel 電流 (脳型 I_{Na} と筋型 I_{Na}) の存在が示され、その歩調取りと洞房伝導機能への関与について次第に解明されてきている様な気がします。かつて自分のやった事を更に進めて理解し易く頭をすっきりさせてくれる人が世界には居て、とても助かる感謝の気持ちすら致します。洞不全症候群の中に I_{Na} の関与するものがある事もだんだん知られてきたのも嬉しい心境です。十数年来インターネットのお陰で、山梨に居てもそれ程奥地に籠もっている風の環境ではありません。

脳卒中の臨床では AHA は到底無理難題の領域と思い、帰郷後早くから Stroke Division の会員になっていました。2003 年に AHA が Am Stroke Assoc (ASA) と一体化しましたが、その前から ACLS と tPA の早期適正使用の重要性は随所で強調されていた様に思います (ACS と stroke は各々 ACLS の 10 core cases の一つ)。2002 年 ASA で San Antonio に行った時、ACLS Instructor シャツも記念に買い込んできました。国内でも ACLS が急速に普及の一途です。私も微力ながら、高野教授・高山先生と秘書の吉田さんに大変お世話になり、日本医大心肺蘇生フォーラムに参加させて頂いております。また、山梨 AHA ACLS サイトで (横山先生に随分励まされ) 昨年暮れ Instructor になってからは日循関東甲信越 ACLS Course でも定期的にお手伝いをさせて頂いている次第です (青木先生と山本先生には常にお世話になりっぱなしです)。かつて大分から一内に戻った時、早川先生から勉強の恩返しは勉強であるもの、という尊い言葉が何時も脳裏に残ったまま今日に至ってしまいました。

ACS (虚血) 時 VF/Pulseless VT は reentry 故まず自然消滅し難く、ATP は枯渇の一途で心筋は更に脱分極し最終的に asystole に至るので、ATP 枯渇以前の自動能再生成と固有心筋収縮が可能な早期に迅速な電氣的除細動 (それでも除細動直後は stunning でか大抵 PEA/asystole)。その間、冠血流と脳血流を維持すべくしっかりと効果的な CPR 実施 (さもないと高次脳機能障害等残しリハビリ病院などで非常に苦勞する)。ACLS Course では汗をかきますが、かつての基礎電氣生理学に費やしたエネルギーとその時みた理論背景を思い出しながら、CPR, Defibrillation, ACLS Instruction をやらせて頂いているのが正に近況です。医局への勉強の恩返しは目下勉強ではなかなか困難ですので、体と汗で貢献できればと念じつつ都合がつく限り ACLS Course へのお手伝いを継続していく所存ですので何卒宜しく御高配下さい。今後とも諸先生方是非とも御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2006 年、師走

近況報告

平成3年 入局 北山 浩気

九州の宮崎でクリニックを開業し、5年目を迎えました。開業場所として、あえて人脈の地盤のない土地を選び、いわゆる落下傘部隊のような状況での開業でした。開業時には、高野教授に、ご無理を言って一筆頂き、パンフレットに掲載させて頂くなど、医局の諸先輩方や宮崎のOBの先生方にも大変お世話になりました。多額の借金を抱え、苦しい船出ではありましたが、自分の思い描くクリニックを創るため、夢中で駆け抜けてきた4年間でした。ふと気づくと自分が第一内科に入局した当時、病棟で先頭を走っておられた先生方と同じ年代となってしまうりましたが、学問的・人間的に今の自分が、いかに劣っているかを痛感する今日この頃です。

在局中は、すきあらば病院を離れて夜の街へ逃げ、大学や医局にも、さほど愛着も感じておりませんでした。最近、(ウツ 冷たい視線を感じます) 最近、どうしたことか大変身。医局の先生が書かれた論文や雑誌があれば、微笑みながら熟読し、先輩方のテレビ出演があれば拍手をしながら拝聴し、当院の患者さんで医者になりたいというお子さんがいれば『日医はいいぞ〜』と宣伝する始末。(付き添いのお母様は苦笑い) 製薬会社の社内勉強会で講師をさせて頂く時も、まずは日本医科大学の説明から入ります。(社員の方は不思議そう) これが母校愛というものなのでしょうか。

在局中、高野教授をはじめ、多くの先生方に本当にお世話になりましたが、退局時、皆さんに充分なお礼も言えておりませんでしたので、この場をお借りしてお礼を述べさせていただきます。また、『日本医大の第一内科ってのは良い医局なんだ』『うちの息子も日本医大第一内科に入れたい』と思って頂けるよう、地域医療に力を注ぎ、微力ではありますが、こんな私でも育てて頂いた第一内科に、少しでも貢献できるよう、努力していくつもりです。

平成18年12月7日

中山孝雄先生を悼む

山崎登志雄

平成 18 年 2 月 14 日物故された。喪主はご子息の智孝さんでした。

中山先生は昭和 28 年卒のクラスで、一年上の 27 年卒の卒業生の方々とともに多志才々の卒業生が多いのでも知られている。当時の第一内科教室は行徳健助教授が主任であり、多勢の入局者があった。27 年には現げんてん会副会長の清野友三郎先生をはじめ荒巻、本田、伊東汎の各先生がご健在であるが 28 年卒クラスは内山栄昇、久保田裕、白井正夫、中山孝雄、梅山喬連の方々がであったが白井先生以外は皆様他界されてしまった。この 27 年 28 年卒の先輩は皆様学年に差なく仲が良く親しげであったのを記憶している。昭和 34 年に木村栄一教授が赴任されてからは、皆様は 36 年度で終了する旧学位制度の間に論文を仕上げるべく努力されていた。病棟や外来勤務を経験された方もいれば、学位受領とともに病院勤務へ、あるいは開業へと転じられた先生もいるという具合であった。28 年卒入局者の中では今回中山孝雄先生が他界されたことにより、浜松の白井正夫先生お一人のみとなり、まことに淋しい限りである。

中山孝雄先生の父上は日本医科大学にとっては大変に貴重な人で、戦中戦後を通じ事務職を務められていた。噂によると、硬骨漢として有名で理屈に合わないことは例え上位の人の指示でも断固跳ねつけられ、出入りの業者も恐れをなしていたとのことである。何か中山孝雄先生と相通じるところがある。また父上の弟さんは本学先輩で東京都の四谷保健所所長を勤められ、日本医師禁煙連盟の会長もされた方と伺っており、お元気でいられる模様である。

さて、孝雄先生は当時の教室では「ウマさん」の愛称で呼ばれていた。昭和 30 年代には今ほど競馬は盛んではなく勿論テレビも普及していなかった時代であるが、馬に関するその豊富な知識はたいしたものらしく、時々医局で誰にともなく、特別の馬の名前を挙げ、血統を詳しく解説し、走り方つまり追い込み、逃げ切りの得意技を語っていたが、当時の医局員で理解できる者も、競馬に興味を示す者もなく、又馬券が当たり大儲けする話も聞いた事はなかった。先生の隠された趣味であったろう。昭和 38 年頃は外来診療に携わっていたことがあると記憶しているが、この頃山形県の東根にあった日赤病院が共産系のストが余りにも激しく潰れてしまった。そこで県知事が地方医療の喪失に困り、病院を再建し北村山郡の中核医療機関とするため日本医大の理事長高橋末雄先生に依頼されたのである。木村内科からも内科に 2 名を派遣することに決まった。そこで中山先生を内科医長に、ほかにもう 1 名ということで我々クラスにお鉢が回ってきた。高橋孔一さんを含め 5 名で各自 6 ヶ月あて duty 出張となったのである。他に外科、耳鼻科、(小児外来も含む)産婦人科の 4 科で構成された。外科は日赤本院から竹中文良 (S30 卒:「医者がガンになった時」の著書や癌患者の悩みを相談をする団体ジャパンウェルネスの長として益々元気なご様子である。)先生、産婦人科は桑島豊 (S30 卒)のちに院長になられ、その後に亡くなられた。以上の数名の医師で病院再建に努力したのである。設備も人も不足であり、僅か 40~50 床位の小規模な病院であったが、その宿舎に泊まり込み休みなく働いた。当時妻子を連れていたのは小生のみで全員家族的なお付き合いをさせていただいた。孝雄先生は私達が派遣ノルマが終わったあとも医局から交代でくる医員の面倒を良くみてくださった様である。その後中山家出生の地である高知県安芸市(プロ野球のキャンプ地として有名)で開院され御盛業中とのことでした。学会の時一緒になり一杯どうぞとお誘うと、いや F r a u が一緒だからと離れた所におられた感じの良い婦人を指さされたのも懐かしい。現在娘さんが付属病院の整形の医局に勤めていられるとか。やはり大学に縁がおありのようです。

市川章君の思い出

山崎登志雄

私の弟の秀雄（既に他界）と同級なので、市川章君は何となく弟の様な気がしていました。彼の兄の瑞雄君は昭和32年卒クラスの私と同期で特にカメラ、写真に長じていました。彼はさいたま市の大宮で開業（耳鼻科）されていた一家の次男でした。市川君のS35年卒のクラスは、大変厳しいと評判の木村内科の試験で、不合格者が多く何回も追試を食らう連中が続出でした。その者達は弟の仲間に多く、私は何くれとなく要点を教えながら試験監督などしていましたが、彼の顔もたまに見かけていました。彼がインターン先を付属病院に選び、国試後教室入局となったのは何かと木村内科に馴染みができたからではないかと考えていました。とに角、入局希望の挨拶に来てくれた時には大いに歓迎しました。何といっても彼の父の耳鼻科は兄が継いでいたので、彼は何科を選ぼうにも自由でした。生死に関係のある内科医こそ本当の医者だと炊きつけたのを真剣にうけとめてくれたのが嬉しかったからです。既にインターン時代に経験したとはいえ、教授回診の時には前日の夜は深夜までデータの整理、患者の容態の再確認、診断根拠などをくり返し一緒に回診対策を練りました。回診は週2回あるので一人の受け持ち患者だけでも真剣そのものであったのを憶えています。彼の真面目で飾らない性格、素直な態度はまことに好感もてるものであり、なおかつ周囲に対する気遣いとどんな患者でも心からその人が好きになるという美点は内科臨床医として得難い利点でありました。そのうち受け持ち患者が増えて臨床能力が向上すると更に信頼される医者に成長しました。数年の間に学位のための研究の成果が実り、学会発表や臨床報告もくり返すようになると、いつのまにか「アーさん」のニックネームと共に押しも押されもしない医師となったのです。昭和43年に私が湯河原厚生年金病院に出張赴任した際には彼も一緒に派遣され、2人で循環器系のリハビリテーションを含む60人以上の入院患者を受け持ち、外来も当直もするという激務に3年間大奮闘しました。略3年後に私が大学に再度復帰すると彼も辞職し、大宮に帰り結婚、診療所開設ということになりました。時々逢うと順調に診療しているということでしたが、この頃より趣味的に神社と寺、古刹を訪れ、埼玉近辺は元より関東圏に及ぶ範囲の寺参りをしており、なかなか楽しいですよと話していましたが、ある時突然彼の著書が送られてきたのです。それは俳句集であり、多分寺巡りがさらに高じて俳句の会に入り、会員に教わりながら自作の句が増えたので出版したというようなことが書いてあり、地区医師会の仲間にも刺激を受けたとのことでした。続いて第2の句集が送付されてきましたので元気に人生を楽しんでたと推測していたのですが本年7月の同窓会理事会の折、市川章先生死亡の報告がなされ、想像もしていなかったことでもあり、大きな驚きで一瞬絶句いたしました次第です。元気でにこにこした顔が浮かびます。いつまでも「アーさん」の活発な姿は忘れられません。享年71歳。御逝去は平成18年6月19日21時38分。喪主は奥様の吉子さん、さいたま市の多門院で葬儀がとりおこなわれました。御冥福をお祈りいたします。

酒井義雄先生を偲んで

昭和 38 年卒 荒牧琢己

酒井義雄先生が本年(平成 18 年)3 月 15 日、享年 72 歳で亡くなられた。先生と同級生には早川弘一元学長をはじめ、個性ある錚々たる方々がおられ、私がごとき後輩が追悼文を記すのも畏れ多いことであるが、告別式に際しご遺族より弔辞を依頼された経緯があり、不肖の弟子として聊かでもお役には立つべきと考え、「げんてん」に寄稿させていただくこととした。「不肖の弟子」というのは、私たちの博士論文となった一連の研究を酒井先生から直接ご指導いただいた関係にあるからである。

先生は昭和 35 年に日本医大を卒業され、山形の酒田市立病院で医学実地習練を行った後、36 年 4 月、第一内科研究生となられた。昭和 38 年 1 月には本学生化学教室に助手として移られた。恐らく早々と博士号を取得され、40 年 12 月には同教室を退職されている。当時、本学生化学教室ではヘモグロビンの研究が盛んであった。先生もオタマジャクシのヘモグロビンについて研究したと話されていた。第一内科へ帰局され病棟勤務であった昭和 41-42 年頃、私は同級の磯田君とともに指導を受けた。その後の酒井先生の記録は第一内科には残されていないようだが、記憶の確かな 39 年卒の伊東邦昭先生によれば、昭和 43 年から 45 年にかけて派遣病院の一つであった私学共済下谷病院に勤務された後、東京の東村山市で開業された。

当時、奥村先生(当時、助教授)の指導のもとでアスピリンの代謝酵素であるアスピリン・エステラーゼ(AE)の研究が行われていた。臨床的研究とともに家兎を使って臓器内分布や、肝細胞内局在を病態ごとに測定していた。また、イヌを用いて低酸素負荷、肝動脈狭窄・閉塞実験などを行っていた。この一連の実験的研究の、少なくとも生化学的な部分は酒井先生の手によった。とくに、AE の測定法は先生が考案したものであった。それまでの測定法では、検体とアスピリン溶液を 4 時間半もインキュベートしていたが、先生の方法では 30 分足らずで済んだ。実験では暴れまわる兎を固定するため、捕り物帳のように先生とともに大騒ぎしたのも懐かしい。

決められた日の夕方、生化学教室の研究室で先生を待っていると、昼間はあまり見かけなかった先生がどこからともなく現れて、無言で実験が始まる。大抵、脇には実験用のコップにウイスキーの水割りが置かれていた。ボソボソと何か言いながら、どんどん自分でやってしまう。こちらはただただ眺めているばかり。仕事といえば、結果がでると、云われるままに数字をノートに記入すること、実験終了後、試験管を洗うことのみであった。実験方法や条件は先生が自ら記載されていた。もう一人、私の肝生検の指導者に、I 先生という、2 年先輩の、昼間は寡黙な先生がおられたが、やはり手をとって教えてくれることはなく、その技術をよく観察して盗むばかりはなかった。あの頃にはそういう個性の強いオーブンが多かった。また、酒井先生は学者然といろいろ議論を並べるより、実験そのものを好まれ、楽しまれている様子であった。これらの結果は多くの国内学会や、1968 年(昭和 43 年)にはプラハでの国際消化器病学会でも報告され、先生にもこの学会抄録に名前を連ねさせていただいたが、先生には外国などあまり興味がないうであった。

先生の性格は我々教えを乞う側からみると豪放、磊落であった。一面、シャイなところもあった。そのころ、先生は豊島園の近くに住んでおられ、その近くまで私の自家用車でお送りしたつもりが、有無を云わず途中で車を止めさせられ、道路脇に置いたまま夜の街に繰り出し、翌日、車を回収に行った覚えが何回かある。もう 10 年以上前になるであろうか、先生は心筋梗塞を患われたが、回復したのち、肝臓班の宴会にも出席していただくようになり、二次会に我々を導きだしてくれたものである。

今、自分の博士論文を探し出して読み返すと、酒井先生の面影が鮮明に蘇って思い出される。この論文作成の頃が、自分の一生のなかでもっとも活動的で、輝ける時代であったとすれば、それは酒井先生とともにあり、酒井先生のお陰であった。いくら後輩とはいえ、何もお返しができなかった自分が悔やまれる。自分の若かりし頃が蘇ってきて恥ずかしい。あの頃、医局では「先生は木村教授のみ」という鉄則があって、上級生も「さん」づけであったが、私にとって本当の先生は酒井先生のような人であった。感謝の意を籠め、改めて先生のご冥福をお祈りいたします。

故佐々木美典先生の御逝去を悼んで

昭和60年卒、第一内科 平山悦之

平成18年12月9日(土)午後6時43分、佐々木美典先生がご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

故佐々木美典先生は昭和60年に日本医科大学を卒業後、同年私達8名と共に第一内科に入局、心カテ班の一員として病棟、外来また都立駒込病院へ出向したときも多くの若手医局員の指導に大活躍。その優しく、思いやりある人柄、人望から明るい笑顔の中心にはいつも彼がいました。宴会の席でお子さんの話になると優しい笑顔がいつそうふくらみ“子供は美しい山と川、自然豊かな自分の故郷で育てるんだ”といつも話しており、そのような美しい自然に恵まれた故郷をお持ちの佐々木君をいつも羨ましく思っていました。そしてその言葉通り、医局での仕事が一段落すると故郷の山口県に帰り、お父様の後を引き継ぎ、奥様の映子先生と共に開業なされました。地域の患者さんのため、またさらには山口県医師会常任理事として東京、沖縄への出張など大変お元気に精力的に活躍されている様子を伺っておりました。

しかし今年11月中旬、黄疸に気づき精査予定のところ11月20日、右季肋部痛が出現し地元の病院へ緊急入院。その後、山口大学付属病院へ転院し療養中でしたが、薬石効無くまことに残念ながら、12月9日亡くなりました。享年51歳とそのあまりに若すぎる、ご逝去に心より哀悼の意を捧げます。

げんてん会活動報告

1. げんてん会総会

平成18年5月20日(土) 橋桜会館でげんてん会総会が開催され、現役、OB 含め75人の先生方の参加をいただきました。山崎登志雄会長、高野照夫教授より開会のご挨拶をいただいた後、げんてん会会費納入状況および会計報告がなされ全会一致で承認されました。懇親会では新研修医制度が開始されて初めての初入医局員、12人が紹介されました。いずれも優秀な即戦力として大いに期待され、奥村名誉教授、早川名誉教授はじめ多くの先生方から温かい励ましのお言葉をいただきました。最後に木村 公様より近況報告などお元気でおすごしの様子をお話いただき、和やかな雰囲気の中に会はお開きとなりました。

2. ホルター心電図研究会

平成18年6月24日、加藤貴雄教授が会長を務められたホルター心電図研究会が丸ビルホール&カンファレンススクエアで開催されました。当日は医師、看護師、コメディカル、MRの方など日頃心電図を中心とした臨床生理に関わる多くの方々の参加があり、ホルター心電図の進歩、発展あるいは臨床応用に関するさまざまな研究が一般演題、シンポジウムあるいは教育講演の形で発表され、活発な討論、質疑応答がなされました。ホルター心電図は心電図を長期間記録するという従来の形に加えて、加算平均心電図など微小電位の検出、心拍変動周波数解析、T波交互変動周波数解析、QT/RR解析など多様な心電図二次解析を加えることでさらに詳細な情報が得られ、今後いっそう進化する極めて有用な検査法であるという強いメッセージが参加者に伝わり、極めて有意義な研究会となりました。

日本循環器学会関東甲信越地方会

平成18年12月2日、加藤貴雄教授が会長を務められた日本循環器学会関東甲信越地方会が日本医科大学橋桜会館で開催されました。日頃、臨床の現場で遭遇する様々な貴重な症例を中心とした報告が一般演題として109題発表されました。また教育セミナーとして「不整脈外科治療の進歩」について日本医科大学胸部外科新田 隆教授が、「冠動脈CT検査の進歩と展望」というタイトルで同じく放射線科の林 宏光助教授が講演なされ、目覚ましい外科治療の進歩と、冠動脈造影に代わりうる画像診断としてCT検査法について、現状と将来に向けた展望が示され、大いに啓発される学会となりました。さらに医局の若手医局員にとっては初めての学会デビュー、しかもお膝元の同窓会館での発表とあって本人だけでなくオーベンにとっても緊張感溢れる、充実した一日となったようです。

第一内科忘年会

平成18年11月25日(土) 東京ドームホテルで第一内科忘年会が行われました。今回は高野教授ご在任中、最後の忘年会であり、また当日は高野教授65歳のお誕生日ということもあり、現役、OBの先生方はもちろんナース、パラメディカル、事務の方たちもあわせて206名という極めて多くの方々の御参加をいただき大盛会となりました。山崎会長、奥村名誉教授、早川名誉教授はじめ多くのご挨拶、御歓談、ビンゴゲームの後、特大のバースデーケーキが用意され、その上を飾るろうそくの火を高野教授が一気に吹き消され、会場は大いに盛り上がりました。そして最後に参加者全員で記念撮影を行ない、お開きとなりました。この写真は第一内科ホームページに掲載される予定ですので是非ご覧ください。

5. げんてん会会費納入のお願い

財務状況は引き続き良好ですので、年会費5000円をお振り込みの程、何卒、お願い申し上げます。

6. 次回げんてん会総会

例年通り、平成19年5月下旬を予定しております。

平成19年度も優秀な新入医局員を多数迎えることができそうです。当日はその歓迎会も兼ねて行なう予定ですので皆様ご出席いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

7. 開催学会、研究会報告

第13回心臓リハビリテーション学会が以下の通り開催されます。

会長：岸田 浩教授

日時：平成19年7月13～14日

場所：都市センター、シェンバツハ砂防

げんてん会総会プログラム

平成18年5月20日（土）

会場：日本医科大学 橘桜会館

3:30 PM 幹事会

4:00 PM 開会挨拶、 会長 山崎登志雄先生

同、 高野照夫教授

主催学会々長報告 加藤貴雄教授 ホルター心電図研究会（橘桜会館、

2006.6.24）

日本循環器学会地方会（丸ビル、2006.12.3）

会計報告

5:00PM 懇親会

（1）開宴挨拶 大林完二先生

（2）乾杯 清野友三郎副会長

（3）新入医局員紹介

（4）近況報告その他

2005年5月
 付属病院
 外来(3)

八島、福本、清水一、
 (安武ひ、柏木、馬場、福間祐、高木郁、西垣、横島、
 小野い、宮内瑞、加藤祐、加藤和、真鍋、徳泉、春日、)

A6(12+1)

小原俊、宮内、清水治、愛須、川嶋、阿部、上野、
 藤本、北村、中村、村田、山本哲、松村、

C6(13+2)

浅井、青木、大野忠、馬淵、林、平澤、谷口、
 館岡、山下、佐々木、東、白壁、小杉、菊池美、石井、

E5(12+1)

高野仁、田中古、小野、高木元、丸山、堀江、山本英、
 岡崎、太良、小鹿野、鈴木浩、菊池、松井、

CCU(6)

山本剛、藤田進、岩崎、淀川、加藤浩、吉川、

生理機能

本間、

丸子(13)

寺田、内田、星野、高橋直、山口、網谷、竹永、石川昌、
 酒井行、原田、青木亜、加藤活、大塚、

健康管理科

山中、

北総内科(13)

奥村、川口、野村、大場、清宮、高野雅、稻見、徳山、
 田近、小川紅、村上、富田、木股、

CCU(7)

今泉、横山真、品田、田邊潤、椎葉、鈴木雄、花岡、

永山(15)

田寺、小谷、宮本、緒方、松本、佐藤越、石井、吉田博、
 福島、時田、宮地、岡田、與田、宮元、篠田、

北村山

金村、佐伯、亀山、村井、小林宣、

駒込

説田、荒尾

波崎

笠井、長野、本郷、板倉、

登戸

洪、三船、神谷、

大倉山

長江、後藤、三浦、

博慈会

小川剛、田中邦、高橋保、渋井、

東京リハビリ 石川貴

静岡医療セ

横山広、森田、宗像、細川、岩本、牛島、稻見徹、

鶴見歯科

磯田

同愛記念

櫛方、小原啓、大野大、

久我山

高山英、

基礎大学院

第2生化：田辺浩、

留学生

李、

留学(9)

佐野、塚田、遠藤&育、上村、大野則、坪、高橋啓、高久、

休職

土田、吉川真、

付属病院

- 外来(4) 八島、塚田、福本、清水一、
(安武ひ、柏木、馬場、福間祐、高木郁、西垣、横島、
田辺浩、宮内瑞、加藤祐、加藤和、真鍋、徳泉、春日、)
- A6(11+1) 小原、宮内、清水治、藤田進、川嶋、上野、牛島、
藤本、北村、村田、吉田明、~~青木~~
- C6(11+2) 浅井、青木、大野忠、馬淵、愛須、谷口、山下、
佐々木、東、小杉、中村、~~小野(研修2年目)~~、~~北野~~
- E5(11+1) 高野仁、田中古、小野、高木元、丸山、堀江、山本英、
~~岡崎~~、太良、菊池、宮元、~~川島~~
- CCU(7) 山本剛、岩崎、平澤、加藤浩、吉川、村井、神谷、
生理機能
丸子(14) 本間、
寺田、内田、星野、川口、高橋直、山口、網谷、竹永、
阿部、石川昌、酒井行、原田、大塚、花岡、
健康管理科 山中、
北総内科(14) 奥村、大場、大野則、清宮、高野雅、稲見、徳山、淀川、
田近、小川紅、村上、富田、木股、山本真、
CCU(6) 今泉、横山真、品田、椎葉、鈴木雄、白壁、
永山(15) 田寺、小谷、緒方、松本、佐藤越、石井、吉田博、福島、
時田、宗像亮、岡田、加藤活、鈴木浩、篠田、中込、
北村山 金村、佐伯、亀山、岩本、宮地、
駒込 説田、荒尾、
神栖 笠井、長野、本郷、板倉、
登戸 洪、三船、
大倉山 長江、後藤、三浦、
博慈会 小川剛、田中邦、高橋保、渋井、
東京リハビリ 石川貴
- 静岡医療七 横山広、田邊潤、細川、小林宣、稲見徹、小鹿野、青木亜、
鶴見歯科 磯田、
同愛記念 櫛方、小原啓、大野大、
久我山 高山英、
八丈島 山本哲、
留学生 李、
留学(9) 佐野、遠藤&育、上村、坏、林、高橋啓、高久、森田、
休職 土田、舘岡、吉川真、與田、

CC

年月日	症例	病歴番号	演者	司会	診 断
平成17年					
4月12日	64歳 女性	335724	山脇秀元	丸山光紀	Pulmonary arteriovenous fistura due to Rendu-Osler-Weber syndrome susp, CHF due to Mitral Stenosis
5月10日	49歳 女性	337557	松村次郎	宮内靖史	exacerbation of AIH, Sjogren syndorome (dry eye, dry mouth, oisitive anti SS-A Ab, positive schilmer test)
5月24日	47歳 男性	338342	松井秀平	田中古登子	Buerger Disease (Fontaine分類IV度) HL
6月7日	80歳 女性	335168	細川僚子	大野忠明	multiple hepatocellular carcinoma with non-alcoholic steatohepatitis diabetes mellitus (type 2)
7月5日	33歳 女性	33902	北村光信	宮内靖史	Acute transverse myelitis with Longitudinal involvement (C3-YH10) with hyperesthesia, hypesthesia and adynamic ileus
7月12日	29歳 男性		中村俊一	小原俊彦	Ehlers Danlos syndrome type IV (Post stent graft implantation state for rt, accessory renal, artery aneurysm.
9月20日	62歳 女性	339793	北蘭雅敏	小野卓哉	CHF due to HCM, severe MR Hypertension
9月27日	35歳 女性		菊池有史	田中古登子	Nonthyroidal illness induced by Prednisolone AIH (type 1)
10月11日	68歳 男性		鈴木浩臣	高木 元	sustained VT due to HOCM(MVO) post ICD implantation state for NSVT
10月18日	72歳 女性		佐々木朝子	浅井邦也	flash pulmonary edema caused by renal artery stenosis history of Takotsubo cardiomyopathy
10月25日	57歳 女性		山本英世	田中古登子	Acute hepatitis (hepatitis A virus infection) with acute tubulart necrosis exaggeratede bu NSAID, DM (tyoe 2)
11月1日	64歳 男性		白壁章宏	青木 聡	Legionnaires pneumonia with ARDS, LFD, rhabdomyolysis HI
11月8日	55歳 女性		小澤由季子	藤田進彦	Discrete Subaortic Stenosis HOCM post PTSMA state
11月15日	20歳 女性	341890	橋本雅夫	大野忠明	PTE and Proximal DVT due to Protein S deficiency Post cesarean section sith DIC (Premature infant Parturition)
11月22日	69歳 女性		吉田明日香	山本 剛	Fluminant myocarditis with Paf ITP
11月29日	74歳 男性		村田広茂	清水秀治	Right-sided heart failure due to ARVC with severe TR, chronic Af, CRBBB and O-SAS, resulted in cardiac cirrhosis

平成18年

1月17日	71歳 男性		佐々木朝子	浅井邦也	DM (type 2) with hemicrorea (lt.side) OMI (inferioe, apex)
1月24日	57歳 女性	345903	太良修平	丸山光紀	CHF due to cardiomyopathy (isolated left veatricular noncomp:action) Long QT syndrome
1月31日	46歳 女性		吉田明日香	宮内靖史	Cardiomyopathy secondary to polymyositis with sustained VT and chronic AF, Primary biliary cirrhosis
2月21日	53歳 女性	348920	小杉宗範	青木 聡	Well's disease OMI (anterior-septal, inferior-posterior) post PCI (#1, #3, #11-14) state

CPC

年月日	症例	病歴番号	演者	司会	上段；臨床診断、下段：病理診断
6月6日	74歳 女性		竹内純子 (3内)	坂本	悪性リンパ腫、胃癌 多重眼
10月3日	58歳 女性		小杉宗範 (1内)	福間長知	肺動脈血栓塞栓症、 両肺動脈血栓塞栓症、陳旧性心筋梗塞、糖尿病
2月6日	57歳 女性		(4内)		ATL, DPB(Diffuse Pan Bronchiolitis) ATLL(成人T細胞白血病/リンパ腫)/サイトメガロウイルス感染症

CC: 火曜日午後5時半～ 第一講堂 → 現在は火曜日午前7時50分からに変更になっています。

CPC:約三ヶ月に1回 第一臨床講堂

学位取得者

氏名	取得年月日	論文名	雑誌名、巻(号)、 発行年
	学位記番号		
田辺浩子	平成17年5月13日 甲第1155号	HIV-mediated expression of Btk in hematopoietic stem cells is not sufficient to restore B cell function in X-linked immunodeficient mice	J Nippon Med Sch 72(4):203-212 2005
福島正人	平成17年7月8日 乙第1781号	Dual-isotope myocardial SPECT in patients with redefined myocardial infarction	Int J Cardial 104(2):204-212 2005
阿部純子	平成17年9月16日 甲1163号	Electrical excitation of the pulmonary venous musculature may contribute to the formation of the last component of the high frequency signal of the P wave	J Arrhythmia 21(3):2005
吉田博史	平成17年11月10日 乙第1786号	Pharmacological preconditioning with bradykinin affords myocardial protection through NO-dependent mechanism	Int Heart J 46(5):877-887 2005
加藤和代	平成18年3月3日 甲1173号	Improvement of sympathetic response to exercise by oral administration of ascorbic acid in patients after myocardial infarction	Int Heart J Epub 2005
堀江 格	平成18年3月3日 甲1176号	Adenosine-sensitive tachycardia originating from the proximal coronary sinus	Heart Rhythm 2(12):1301-1308: 2005
加藤祐子	平成18年3月3日 甲1169号	Contribution of chemoreflex hypersensitivity and anaerobic product to PaCO ₂ during exercise in patients with chronic heart failure	Jpn J Clin Physiol 36(1):2005

著 書

著者名、所属名	論 文 名	図 書 名	発 行 社	発行年月	ページ
【著書】					
小林義典	【分担】循環器4 期外収縮・発作性頻拍 非薬物療法：(3) 植込み型除細動器	新しい診断と治療のABC28	最新医学社	2005 4	191-198
加藤貴雄	【分担】循環器4 期外収縮・発作性頻拍 上室期外収縮・頻拍のガイドライン	新しい診断と治療のABC28	最新医学社	2005 4	264-273
宗像一雄	【分担】最近、急に発汗、手の震え、動悸などの症状が出て、頭痛もします。高血圧が心配で来ました	患者さんの質問に答える 外来高血圧症診療	南山堂	2005 5	237-240
宗像一雄	【分担】先生のところでは高血圧の治療中ですが、先週、妊娠していることがわかりました。降圧薬はこのまま服用してもよいでしょうか	患者さんの質問に答える 外来高血圧症診療	南山堂	2005 5	253-255
宗像一雄	【分担】以前から少し血圧が高いと言われていますが、最近、肥ってきたせいか、工作中、会議中でも眠くなってしまいます。妻から夜間にいびきをかき時々呼吸が止まるようだとされています。例の睡眠時無呼吸症候群ではないかと心配で来ました	患者さんの質問に答える 外来高血圧症診療	南山堂	2005 5	263-267
高山守正	【分担】飲酒と喫煙の害	山の救急医療ハンドブック	山と溪谷社	2005 7	77
高山守正	【分担】生活習慣病と山	山の救急医療ハンドブック	山と溪谷社	2005 7	152
清野精彦	【分担】急性心筋梗塞の診断：トロポニン、H-FABPなど新規生化学マーカーの意義と選択は？	EBM循環器疾患の治療2006-2007	中外医学社	2005 9	2-7
加藤浩司, 高野照夫	【分担】7. 補助循環をいつ使うか、どのように使うか	新・心臓プラクティス6 心不全に挑む・患者を救う	文光堂	2005 9	239
加藤貴雄	【自著】	臨床医のためのやさしい心電図の読み方	永井書店	2005 10	
清野精彦	【分担】急性冠症候群を迅速に診断 ラピッドテストの有用性と活用法	診療アップデート	日経メディカル	2005 11	34-40
新 博次	【分担】不整脈	内科学レビュー2005	総合医学社	2005	39-43
新 博次	【分担】第1章 期外収縮・発作性頻拍の概念・定義と疫学：疫学	新しい診断と治療のABC「期外収縮・発作性頻拍」	最新医学社	2005	17-23
清野精彦, 山下照代, 小川晃生, 佐藤直樹1) (1)集中治療室)	【分担】急性心不全の治療	新目でみる循環器病シリーズ21 循環器病の薬物療法	メジカルビュー社	2006 1	12-23
新 博次	【分担】Naチャンネル遮断薬の使い方	新目でみる循環器病シリーズ「循環器病の薬物療法」	メジカルビュー社	2006 1	165-171
岩崎雄樹, 山下武志1) (1)心臓血管研究所)	【分担】Kチャンネル遮断薬の使い方	新目でみる循環器病シリーズ21 循環器病の薬物療法	メジカルビュー社	2006 1	182-187
岸田 浩	【分担】狭心症におけるCa拮抗薬の役割と使い方	新目でみる循環器病シリーズ21 循環器病の薬物療法	メジカルビュー社	2006 1	200-207
新 博次	【分担】ガイドラインを治療にどう活用するか	新目でみる循環器病シリーズ「不整脈」	メジカルビュー社	2005	224-232
小林義典, 新博次	【分担】心房中隔欠損	新目でみる循環器病シリーズ「先天性心疾患」	メジカルビュー社	2005	254-260
本間 博, 藤本啓志, 大野忠明	【分担】III読む 虚血性心疾患：血行再建を予定する患者	新目で見る循環器病シリーズ「心エコー図」	メジカルビュー	2006 1	109-113
清野精彦	【分担】心臓神経症	今日の治療指針2006年版(ポケット判)	医学書院	2006 1	318-319
清野精彦, 小川晃生, 安武正弘, 高野照夫	【分担】虚血性心疾患 b. 中高年期	性差からみた女性の循環器疾患診療	メジカルビュー社	2006 1	64-82
加藤貴雄	【分担】不整脈 洞不全症候群 (SSS)	循環器疾患最新の治療2006-2007	南江堂	2006 2	267-270
田中啓治, 高野照夫	【分担】急性心筋梗塞に伴う機械的合併症	循環器疾患最新の治療2006-2007	南江堂	2006 2	63-66

著 書

著者名、所属名	論 文 名	図 書 名	発 行 社	発行年月	ページ
本間 博, 大野 忠明	【分担】D 検診で心拡大を指摘されて受診 64 歳, 女性, 拡張期雑音あり	「Problem・basedでひもどく 心エコー図の読み方」-症 状, 所見から考える心エコー 診断のアプローチ-	分光堂	2006 2	152-158
酒井行直, 大野 大, 大塚智之, 村澤恒男, 黒川 顯1) (1)第二 病院救命救急 部)	【分担】周術期, 外傷(脳疾患患者を含む)に対 する血液浄化	救急・集中治療 急性血液浄 化法徹底ガイド	総合医学社	2006 2	164-166
岸田 浩, 本間 博	【分担】心電図で病態を診る 4. 心筋虚血・心筋 梗塞の診断と検査の進め方	新・心臓病診療プラクティス 7. 心電図で診る・治す	文光堂	2006 3	89-93
水野杏一	【分担】血管内視鏡	NAVIGATOR血栓症ナビゲー ター	メディカルレ ビュー社	2006	188-189
水野杏一, 清宮 康嗣	【分担】血管内エコー	NAVIGATOR血栓症ナビゲー ター	メディカルレ ビュー社	2006	190-191
水野杏一	【分担】急性冠症候群の診療に関するガイドライ ン	今日の治療2006	医学書院	2006	1577- 1583

論文(原著、綜説)

著者名、所属名	題名	雑誌名	巻(号)	ページ	掲載年月
【原著】					
Akutsu K, Sato N, Yamamoto T, Morita N, Takagi H, Fujita N, Tanaka K, Takano T	A rapid beside D-dimer assay(cardiac D-dimer) for screening of clinically suspected acute aortic dissection	Circ J	69(4)	397-403	2005 4
Tajima H1), Murata S1), Kumazaki T1), Nakazawa K1), Ichikawa K1), Yamamoto T2), Tanaka K2), Takano T (1)Radiology, 2)Coronary Care Unit)	Recent advances in interventional radiology for acute massive pulmonary thromboembolism	J Nippon Med Sch	72(2)	74-84	2005 4
Itoh A1), Ibuki C1), Suzuki T1), Atarashi H1), Kishida H, Ohsuga H2) (1)日本医科大学多摩永山病院内科, 2)明治薬科大学)	Fast Fourier Transform (FFT) analysis of the effects of epalrestat, an aldose reductase inhibitor, on autonomic function in diabetic patients	Auto Nerv Syst	42(2)	153-161	2005 5
Tang XL, Takano H, Xuan YT, Sato H, Kodani E, Dawn B, Zhu Y, Shirk G, Wu WJ, Bolli R	Hypercholesterolemia Abrogates Late Preconditioning via a Tetrahydrobiopterin-Dependent Mechanism in Conscious Rabbits	Circulation	112(13)	2149-2156	2005 5
Akimoto T1), Hayashi N2), Adachi M3), Kobayashi N, Zhang Xj, Ohsuga M, Katsuta Y (1)日本医科大学動物実験管理室, 2)同内科学第2, 3)大橋病院)	Viability and Plasma Vitamin K Levels in the Common Bile Duct-Ligated Rats	Exp Anim	54(2)	155-161	2005 5
Hirayama Y, Atarashi H, Kobayashi Y, Horie T, Iwasaki Y, Maruyama M, Miyauchi Y, Ohara T, Yashima M, Takano T	Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitor Therapy Inhibits the Progression From Paroxysmal Atrial Fibrillation to Chronic Atrial Fibrillation	Circ J	69(6)	671-676	2005 6
Ono T, Saitoh H, Yi G, Hnatkova K, Kobayashi Y, Atarashi H, Katoh T, Takano T, Malik M	Clinical implication of T-wave morphology analysis as a new repolarization descriptor	Circ J	69(6)	666-670	2005 6
Kumita S1), Cho K1), Nakajo H1), Toba M1), Fukushima Y1), Mizumura S1), Sano J, Takano T, Kunazaki T1) (1)放射線医学)	Assessment of contractile response to dobutamine stress by means of ECG-gated myocardial SPECT :comparison with myocardial perfusion and fatty acid metabolism	Ann Nucl Med	19(5)	379-386	2005 7
Yasutake H, Seino Y, Kashiwagi M, Honma H, Matsuzaki T, Takano T	Detection of cardiac sarcoidosis using cardiac markers and myocardial integrated backscatter	Int J Cardiol	102(2)	259-268	2005 7
Hayashi M, Tanaka K, Kato T, Morita N, Sato N, Yasutake M, Kobayashi Y, Takano T	Enhancing Electrical Cardioversion and Preventing Immediate Reinitiation of Hemodynamically Deleterious Atrial Fibrillation with Class III Drug Pretreatment	J Cardiovasc Electrophysiol	16(7)	740-747	2005 7
Yamamoto T, Yasutake M, Takagi H, Akutsu K, Fujita N, Kasagami Y, Sato N, Nakagomi A, Kusama Y, Takayama M, Tanaka K, Takano T	Impact of the revised criteria for acute myocardial infarction using cardiac troponins in a Japanese population with acute coronary syndromes	Circ J	69(7)	774-779	2005 7
Shinada T, Hirayama Y, Maruyama M, Ohara T, Yashima M, Kobayashi Y, Atarashi H, Takano T	Inhibition of the reverse mode of the Na ⁺ /Ca ²⁺ exchange by KB-R7943 augments arrhythmogenicity in the canine heart during rapid heart rates	J Electrocardiol	38(3)	218-225	2005 7
Otsu K1), Kuruma A3), Yanagida E1), Shoji S3), Inoue T4), Hirayama Y, Uematsu H, Hara Y2), Kasano S3) (1)東京医科歯科大学心臓血管学, 2)同生化学, 3) (株) 理研科学)	Na ⁺ /K ⁺ ATPase and its functional coupling with Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger in mouse embryonic stem cells during differentiation into cardiomyocytes	Cell Calcium	37	137-151	2005 7
Katsuta Y, Zhang XJ, Ohsuga M, Akimoto T, Komeichi K, Shimizu S, Kato Y, Miyamoto A, Satomura K, Takano T	Arterial hypoxemia and intrapulmonary vasodilatation in rat models of portal hypertension	J Gastroenterol	40(8)	811-819	2005 8
Katsuta Y, Higashi H, Zhang XJ, Kato Y, Shimizu S, Komeichi H, Ohsuga M, Satomura K, Takano T	Association of limited scleroderma and pulmonary hypertension in a patient with primary biliary cirrhosis	J Nippon Med Sch	72(4)	230-235	2005 8

論文(原著、綜説)

著者名、所属名	題名	雑誌名	巻(号)	ページ	掲載年月
Katsuta Y, Zhang Xj, Ohsuga M, Akimoto T, Komeichi H, Shimizu S, Inami T, Miyamoto A, Satomura K, Takano T	Hemodynamic features of advanced cirrhosis due to chronic bile duct ligation	J Nippon Med Sch	72(4)	217-225	2005 8
Kanemura M, Katoh T, Tanaka T, Kamei S, Kuroki S, Takano T, Hayakawa H	Sluggish Upstroke of Signal-Averaged QRS Complex. An Arrhythmogenic Sign in Patients with Anteroseptal Myocardial Infarction	J Arrhythmia	21(3)	407-413	2005 8
Kosugi M, Ono T, Yamaguchi H, Sato N, Dan K, Tanaka K, Takano T	Successful treatment of primary cardiac lymphoma and pulmonary tumor embolism with chemotherapy	Int J Cardiol	26(Epub)		2005 8
Fukushima M, Seino Y, Kumita S1), Nakajo H1), Cho K1), Takano T (1)放射線医学)	Dual-isotope myocardial SPECT in patients with redefined myocardial infarction	Int J Cardiol	104(2)	204-212	2005 9
Yoshida H, Kusama Y, Kodani E, Yasutake M, Takano H, Atarashi H, Kishida H, Takano T	Pharmacological preconditioning with bradykinin affords myocardial protection through no-dependent mechanisms	Int Heart J	46(5)	877-887	2005 9
Morita N, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T	Anatomic and electrophysiologic evaluation of a right lateral atrioventricular Mahaim fiber	Pacing Clin Electrophysiol	28(10)	1138-1141	2005 10
Seino Y, Takahashi H, Fukumoto H, Utsumi I) K, Hirai Y2) (1)内科学第2, 2)Biochemistry and Molecular Biology)	Cardiovascular Manifestations of Fabry Disease and the Novel Therapeutic Strategies	J Nippon Med Sch	72(5)	254-261	2005 10
Song CJ1), Nakagomi A, Chandar S2), Cai H1), Lim IGS3), Mcneil HP3), Freedman SB2), Geczy CL1) (1)The University of New South Wales, 2)University of Sydney, 3)The University of New South Wales)	C-reactive protein contributes to the hypercoagulable state in coronary artery disease	J Thromb Haemost	3	1-10	2005 10
Li T, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Horie T, Taniguchi H, Hirasawa Y, Maruyama M, Ueno A, Abe J, Katoh T, Takano T	Efficacy of Electroanatomical Mapping for Radiofrequency Ablation of Right-sided Accessory Pathways	J Arrhythmia	21(4)	459-464	2005 10
Katoh T, Mitamura H, Matsuda N, Takano T, Ogawa S, Kasanuki H	Emergency Treatment With Nifekalant, a Novel Class III Anti-Arrhythmic Agent, for Life-Threatening Refractory Ventricular Tachyarrhythmias: Post-Marketing Special Investigation	Circ J	69(10)	1237-1243	2005 10
Kato K, Fukuma N, Kimura-Kato Y, Aisu N, Tachida T, Mabuchi K, Takano T	Improvement of sympathetic response to exercise by oral administration of ascorbic acid in patients after myocardial infarction	Int J Cardiol	20(Epub)		2005 10
Katoh T, Ohara T, Ogawa S, Kodama I	Multicenter Survey on the Validity of the CD-ROM Guideline for Antiarrhythmic Drug Therapy Produced by the Japanese Circulation Society and the Japanese Society on Electrocardiology	Circ J	69(11)	1357-1360	2005 11
Horie T, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Maruyama M, Katoh T, Takano T	Adenosine-sensitive atrial tachycardia originating from the proximal coronary sinus	Heart Rhythm	2(12)	1301-1308	2005 12
Katsuta Y, Zhang XJ, Kato Y, Shimizu S, Komeichi K, Ohsuga M, Higashi H, Satomura K, Takano T	Hemodynamic features and impaired arterial oxygenation in patients with portopulmonary hypertension	Hepatol Res	6(Epub)		2005
Sasayama S1), Izumi T1), Seino Y, Ueshima K1), Asanoi H1) (1)CHF-HOT Study Group)	Effects of Nocturnal Oxygen Therapy on Outcome Measures in Patients With Chronic Heart Failure and Cheyne-Stokes Respiration	Circ J	70(1)	1-7	2006 1
Takayama H, Yodogawa K, Katoh K, Takano T	Evaluation of arrhythmogenic substrate in patients with hypertrophic cardiomyopathy using wavelet transform analysis.	Circ J	70(1)	69-74	2006 1

論文(原著、総説)

著者名、所属名	題名	雑誌名	巻(号)	ページ	掲載年月
Terajima K1), Yamamoto T, Onodera H1), Takeda S, Tanaka K, Sakamoto A1) (1)Department of Anesthesiology)	Unmasking of Brugada syndrome by an antiarrhythmic drug in a patient with septic shock	Anesth Analg	102(1)	233-236	2006 1
Otsuka T1), Kawada T1), Katsumata M1), Ibuki C (1)Environmental Medicine, Graduate School of Medicine)	Utility of second derivative of the finger photoplethysmogram for the estimation of the risk of coronary heart disease in the general population	Cir J	70(3)	304-310	2006 2
Kato K, Sato N, Yamamoto T, Fujita N, Miyagi Y, Tanaka K, Takano T	Initial experiences of removal of intra-aortic balloon pumps with the Angio-Seal	J Invasive Cardiol	18(3)	130-132	2006 3
Yamanaka H, Suzuki T, Kishida H, Nagasawa K, Takano T	Relationship Between the Mismatch of 123I-BMPP and 201TI Myocardial Single-Photon Emission Computed Tomography and Autonomic Nervous System Activity in Patients with Acute Myocardial Infarction	Int Heart J	47(2)	193-207	2006 3
Hata N, Kobayashi N, Imaizumi T, Yokoyama S, Shinada T, Tanabe J, Shiiba K, Suzuki Y, Matsumoto H1), Mashiko K1) (1)Dept. of Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School)	Use of an air ambulance system improves time to treatment of patients with acute myocardial infarction	Intern Med	45(2)	45-50	2006 3
Otsuka T, Ibuki C, Suzuki T, Ishii K, Kodani E, Atarashi H, Kishida H, Takano T1) (1)First Department of Internal Medicine)	Vasodilatory effect of subsequent administration of fasudil, a Rho-kinase inhibitor, surpasses that of nitroglycerin at the concentric coronary stenosis in patients with stable angina pectoris	Circ J	70(4)	402-408	2006 3
Tajima H1), Murata S1), Kumazaki T1), Abe Y1), Takano T (1)放射線医学)	Pulmonary artery perforation repair during thrombectomy using microcoil embolization	Cardiovasc Intervent Radiol	29(1)	155-156	2006 12
山本 剛1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野照夫, 中沢 賢2), 田島廣之2), 隈崎達夫2) (1)集中治療室, 2)放射線医学)	重症急性肺血栓塞栓症に対する治療戦略: カテーテル治療を第一選択として	静脈学	16(2)	79-85	2005 5
平澤泰宏, 中込昭裕, 小林義典, 岡崎裕子, 上野 亮, 館岡克彦, 堀江 裕, 谷口宏史, 淀川顕司, 阿部純子, 岩崎雄樹, 森田典成, 丸山光紀, 宮内靖史, 小原俊彦, 八島正明, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次1) (1)多摩永山病院内科)	アミオダロンは慢性心不全患者において単球のサイトカイン産生を抑制し心機能を改善する	Prog Med	25	1482-1485	2005 6
中村利枝1), 加藤政利1), 竹田裕子1), 平野美子1), 菅谷寿里1), 齊藤公一1), 福岡長知, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 高野照夫 (1)生理機能センター)	エルゴメーター回転速度の差による運動負荷時の心拍反応の変化	心臓リハビリテーション	10(2)	237-239	2005 6
菅谷寿理1), 本江雪貴美1), 吉田由紀子1), 五十嵐亜希1), 中村利枝1), 齊藤公一1), 福岡長知, 加藤和代, 馬淵浩輔, 本間博, 高野照夫 (1)生理機能センター)	心臓リハビリテーション導入期における抑うつ状態が血管内皮機能とサイトカインに及ぼす影響	心臓リハビリテーション	10(2)	258-261	2005 6
板倉潮人1), 小野卓哉, 佐藤直樹2), 小林義典, 本間 博, 宗像一雄1), 田中啓治2), 加藤貴雄, 高野照夫 (1)第二病院内科, 2)集中治療室)	アルコール関連失神に対するアルコール負荷 Head-up tilt試験の有用性: PHYSIO FLOW PF-05 Lab 1による機序の推察	日本臨床生理学会雑誌	35(6)	337-340	2005 12
高野仁司	多剤服用でコントロール不十分な高血圧症例に対する高容量バルサルタンの臨床効果	Ther Res	10	2137-2142	2005
竹田晋浩, 小野寺英貴2), 寺嶋克幸1), 赤田信二, 小林克也1), 中西一浩1), 田中啓治, 坂本篤裕1) (1)麻酔科学, 2)千葉北総病院麻酔科)	集中治療室における非侵襲的陽圧換気(NPPV)の使用状況の推移	日集中医誌	13(1)	41-46	2006 1
緒方憲一, 新 博次, 篠田暁与, 井上 博1), 相澤義房 (1)富山大学医学部第二内科, 2)新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器分野)	ビルジカイニド静注によるBrugada型心電図誘発試験: 不完全右脚ブロック症例における検討	心電図	26(2)	153-161	2006 3

論文(原著、綜説)

著者名、所属名	題名	雑誌名	巻(号)	ページ	掲載年月
小谷英太郎, 大塚俊昭, 石井健輔, 吉田博史, 時田祐吉, 宮地秀樹, 雪吹周生, 草間芳樹, 新博次	有意狭窄のない冠動脈における冠拳縮性と冠予備能: アセチルコリン負荷試験の影響	冠疾患誌	12(1)	17-23	2006 3
【症例報告】					
Mizuguchi Y1), Takeda S, Miyashita M1), Ikezaki H, Nakajima Y, Akada S, Makino H1), Futami R1), Arai M1), Sasajima K1), Tajiri T1), Tanaka K (1)First Department of Surgery)	A Case of cardiac Tamponade Following Esophageal Resection	J Anesth	19(4)	249-251	2005 7
Ogano M, Takano H, Fukuma N, Takayama M, Takano T, Miyagi Y1), Ochi M1), Shimizu K1), Kitamura H2) (1)外科学第2, 2)病理学第1)	Sudden Death in a Case of Cardiac Amyloidosis Immediately after Pacemaker Implantation for Complete Atrioventricular block	J Nippon Med Sch	72(5)	285-289	2005 10
Zreiqat J, Tanaka K, Yasutake M, Sato N, Yajima T, Takano T	Aortic dissection with pseudo-aortic regurgitation and transient myocardial ischemia—a case report	Angiology	56(6)	781-784	2005 11
丸山光紀, 岡崎怜子, 亀山幹彦1), 松本真1), 緒方憲一1), 宮本新次郎1), 田寺長1), 井野 威1), 新博次1), 小鹿野道雄, 上野 亮, 館岡克彦, 堀江 格, 谷口宏史, 阿部純子, 淀川顯司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 小原俊彦, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫 (1)多摩永山病院内科)	頻拍中と同一の心房興奮様式を示す逆行性過常伝導を認めたATP感受性リエントリー性心房頻拍の1例	臨床心臓電気生理	28	167-176	2005 5
岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 小鹿野道雄, 岡崎怜子, 上野 亮, 館岡克彦, 堀江格, 谷口宏史, 阿部純子, 平澤泰宏, 淀川顯司, 森田典成, 丸山光紀, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫	QRS波形および先行周期の交互現象を認めた左脚前肢起源Verapamil感受性特発性心室頻拍の1例	臨床心臓電気生理	28	71	2005 5
篠田暁与1), 山本 剛1), 坪 宏一1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 宮本亮子, 谷口宏史, 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 汲田伸一郎2), 田島廣之2), 中沢 賢2), 隈崎達夫2) (1)集中治療室, 2)放射線医学)	モバイル肺血流シンチグラフィが有用であった, ショックにて発症した広範性肺塞栓症と奇異性塞栓による心筋梗塞を合併した1例	Ther Res	26(6)	1069-1073	2005 6
岩切勝彦1), 田村浩一1), 宮本亮子1), 角田美佐子1), 土屋玲子1), 小原信1), 福田 悠1), 津久井拓1), 福永慶隆1), 坪 宏一, 高山守正, 高野照夫, 宮本正章, 福岡長知, 白杵二郎1), 藤原ゆり1), 川本雅司1), 北村博司1) (1)日本医科大学CPC)	全身性強皮症の経過中に肺高血圧をきたして肺血症にて死亡した1例	内科	96(2)	345-362	2005 8
白杵二郎1), 瀬尾継彦1), 大須賀勝, 猪口孝一1), 安武正弘, 内藤善哉1), 吉川一博1), 壇 和夫1) (1)日本医科大学CPC)	Evans症候群の経過中に遷延性黄疸を合併し治療に苦渋した1例	内科	96(3)	571-586	2005 9
高野仁司, 小鹿野道雄, 高野照夫, 清野精彦, 田村浩一1), 田近賢二1), 宮城泰雄1), 宮内靖史1), 岸田 浩, 内藤善哉1), 北村博司1) (1)日本医科大学CPC)	完全房室ブロックに対するペースメーカー植込み直後に突然死をきたした心アミロイドーシスの1例	内科	96(4)	761-774	2005 10
高木 元, 宮本正章, 安武正弘, 太良修平, 高木都代, 大坪晴美, 高野照夫, 水野博司1), 小池幸子1) (1)形成外科学)	多剤耐性緑膿菌 (MDRP) 合併糖尿病性壊そに対して医療用ウジ治療が有効であった1例	診療と新薬	42(11)	1207-1208	2005 11
高野仁司, 小鹿野道雄, 高野照夫, 清野精彦, 田村浩一, 田近賢二, 宮城泰雄, 宮内靖史, 岸田 浩, 内藤善哉, 北村博司	完全房室ブロックに対するペースメーカー植込み直後に突然死をきたした心アミロイドーシスの1例	内科	10	2037-2042	2005
【綜説】					
Takano M, Mizuno K	Late coronary thrombosis in a sirolimus-eluting stent due to the lack of neointimal coverage	Eur. Heart J. Epub			2005 10

論文(原著、総説)

著者名、所属名	題名	雑誌名	巻(号)	ページ	掲載年月
Takano M, Jang IK-Kyung1), Mizuno K (1)Harvard Medical School)	Neointimal proliferation around malapposed struts of a sirolimus-eluting stent:optical coherence tomography findings	Eur. Heart j.	Epub		2006 2
高野仁司, 清野精彦	高脂血症治療薬	総合臨床	53	2501	2004
清野精彦	心不全治療における心筋マーカー測定の意義(心不全診療における新たな展開)	循環器科	57(3)	239-245	2005 3
水野杏一	プラークと急性冠症候群	The Lipid	16(2)	12-13	2005 4
高野雅充, 水野杏一	プラークの新しい診断法 Optic coherence tomography(OCT)と血管内視鏡	The Lipid	16(2)	40-46	2005 4
林 明聡, 小林義典	緊急に対応すべき不整脈とは	medicina	42(4)	564-567	2005 4
田中啓治	経皮的心肺補助法(PCPS)	メディカル・サイエンス・ダイ	31(4)	112-113	2005 4
加藤貴雄	心電学マイルストーン	心電図	25(4)	298	2005 4
岩崎雄樹	心房細動における血栓の発症機序 3 左心房心内膜機能	治療学	39(4)	371	2005 4
新 博次	不整脈の治療薬	ハートナーシング	18(2)	178-182	2005 4
加藤貴雄	誘因・悪化要因を考慮する!!	日医新報	4224	53-56	2005 4
加藤貴雄	シシリアン・ガンビットの考え方を活用する!!	日医新報	4229	53-56	2005 5
林 明聡	急性心筋梗塞以外のST上昇(特集:1枚の心電図から得られる大きなヒント)	Mebio	22(5)	44-52	2005 5
加藤浩司, 宮本正章, 安武正弘, 高野照夫	重症難治性虚血肢・心に対する自己骨髄幹細胞移植血管再生療法の現状	今日の移植	18(3)	259-266	2005 5
加藤和代, 福岡長知, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 岸田浩, 高野照夫	心筋梗塞患者に対するアスコルビン酸投与後の運動負荷時交感神経反応性の改善	心臓	37 (Suppl2)	14-17	2005 5
福島正人, 清野精彦	心疾患(心不全)患者の感染症	MEDICAL	54(5)	23-31	2005 5
新 博次	洞調律化あるいは維持のための抗不整脈薬の使い方	日本医事新報	4231	22-26	2005 5
岩崎雄樹, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, 山下武志, 関口昭子1) (1)心臓血管研究所)	肺静脈のイオンチャンネルと電気現象:肺静脈はなぜ不整脈源性か?	心電図	25(3)	285	2005 5
田島廣之, 村田 智1), 中沢 賢1), 市川和雄1), 福永 毅1), 小野沢志郎, 隈崎達夫, 山本 剛2), 高山守正, 田中啓治, 高野照夫 (1)放射線医学, 2)付属病院集中治療室)	カテーテル治療	Ther Res	26(6)	1225-1227	2005 6
林 明聡, 小林義典, 森田典成, 岩崎雄樹, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫	(アミオダロンと他療法との併用)除細動器植込み例におけるアミオダロンの併用の効果	Prog Med	25	1583-1587	2005 6
福本裕子, 清野精彦	虚血性心筋症の診断 6) 虚血性僧房弁逆流	IHD Frontier	6	123-126	2005 6
山本 剛	経皮的心肺補助装置(PCPS)の効果と適応	呼吸器科	7(6)	655-660	2005 6
水野杏一	血管内視鏡	臨床医	31	973-980	2005 6
加藤浩司, 宮本正章1), 安武正弘1), 高野照夫1) (1)内科学第1)	重症難治性虚血肢・心に対する自己骨髄細胞移植血管再生療法の現状	今日の移植	18(3)	259-266	2005 6
岩崎雄樹, 高野照夫	新しい心肺蘇生法を学ぶ—BLSとACLS—除細動器と自動式体外除細動器の使用法	外科治療	92	1108-1111	2005 6
田中啓治1), 高野照夫 (1)集中治療室)	内科疾患の診断基準 病型分類・重症度V. 循環器 急性心筋梗塞の診断基準・病型分類・重症度	内科	95	1288-1292	2005 6
加藤貴雄	薬物相互作用に注意する!!	日医新報	4233	53-56	2005 6
小林義典	「不整脈治療」わが国における植込み型除細動器の使用は適正か? (新たなエビデンスで心疾患診療はこう変わる)	EBMジャーナル	6(6)	86-92	2005 6
加藤貴雄	いま心房細動が熱い! (特集:心房細動 update:発生機序から最新の治療戦略まで)	循環器科	58(1)	1-2	2005 7
加藤貴雄	ホルター心電図の情報を有効活用する!! その1. 不整脈発生状況を把握する	日医新報	4237	53-56	2005 7

論文(原著、綜説)

著者名、所属名	題名	雑誌名	巻(号)	ページ	掲載年月
宮内靖史	心筋梗塞と心房細動(心房細動update:発生機序から最新の治療戦略まで)	循環器科	58(1)	33-37	2005 7
岩崎雄樹, 山下武志1) (1)心臓血管研究所)	心房細動update:発生機序から最新の治療戦略まで 心房細動の治療戦略:レートコントロールかリズムコントロールか	循環器科	58(1)	55-60	2005 7
岩崎雄樹, 小林義典	心房細動update:発生機序から最新の治療戦略まで 心房細動発生基質の電気生理学的特長	循環器科	58(1)	9-14	2005 7
新 博次	Brugada症候群	日本臨床	63	1190-	2005 7
加藤貴雄	ホルター心電図の情報を有効活用する!! その2. 時間情報を活かす	日医新報	4242	53-56	2005 8
本間 博	心エコーによる壁運動評価は永遠の課題か?	心エコー	6(8)	666-673	2005 8
宮内靖史	心臓細動の治療戦略(治療戦略の概観)	ハートナーシング	18(8)	61(813)-68(820)	2005 8
本間 博	心房細動と脳血栓・寒栓症予防	日医大医会誌	1(3)	129-134	2005 8
本間 博, 大野忠明	両室ペーシングと組織ドブラ	心エコー	6(8)	714-723	2005 8
高山守正	ACLSはInterventional Cardiologistにとって他人事ではない	心血管	20(4)	299-300	2005 8
加藤貴雄	ホルター心電図の情報を有効活用する!! その3. 専門医コメントを参考にせよ	日医新報	4246	53-56	2005 9
新 博次	患者背景からみた心房細動の薬物治療	循環器科	58(3)	302-307	2005 9
高山守正, 高野照夫	《CCUの治療成績と胸痛センターの役割》東京都CCUネットワーク(心血管エマージェンシー)	内科	96(3)	497-500	2005 9
加藤貴雄	イベント心電計・家庭用心電計を使いこなす!!	日医新報	4250	53-56	2005 10
宮本正章, 高木 元, 水野博司1), 高野照夫 (1)形成外科学)	重症難治性潰瘍に対する医療用ウジ治療と血管再生療法	Pharma Medica	23(10)	41-47	2005 10
清野精彦, 浅井邦也, 小川晃生, 山下照代, 藤田進彦, 安武正弘, 高野照夫	女性の産血性心疾患の特徴	循環器科	58(4)	417-422	2005 10
清野精彦	心筋生化学マーカー	ハートナーシング	241	47-54	2005 10
清野精彦	心不全のサブセット展開From Hemodynamic to Myocardial Damage	呼と循	53(10)	1063-1068	2005 10
清野精彦, 村田広茂, 土田貴也, 加藤祐子	中枢性睡眠時無呼吸に対する夜間酸素療法の有効性(特集:睡眠時無呼吸症候群:診断から治療まで)	Heart View	10(2)	112-118	2005 10
森田典成, 高野照夫	いい産じょく, 悪い産じょく:産じょく期の母児の管理 内科合併症妊婦の産じょくケア心疾患	産婦人科の実際	54(12)	2063-2070	2005 11
小川晃生, 福島正人, 清野精彦	外来でできる迅速キット検査 急性冠症候群(これだけは知っておきたい検査のポイント第7集)	medicina	42(12)	64-66	2005 11
福島正人, 小川晃生, 清野精彦	血液生化学検査/酸素および関連物質 トロポニンT, ミオグロビン, ミオシン軽鎖, 心筋型脂肪酸結合蛋白(これだけは知っておきたい検査のポイント第7集)	medicina	42(12)	182-184	2005 11
加藤貴雄	心房細動が曲者!!	日医新報	4255	53-56	2005 11
高山守正	ハートアタックへの対応:東京都CCUネットワークの現状	ハートナーシング	18(12)	57-62	2005 12
清野精彦	最新の血液生化学検査を利用する:解釈と限界(急性冠症候群へのアプローチ)	medicia	42(13)	2109-2111	2005 12
高山守正	循環器救急医療のOverview	Heart View	9(13)	8(1328)-11(1331)	2005 12
清野精彦	心不全と腎機能(心腎関連:Cardiorenal Risk)	血管医学	6(6)	13(577)-18(582)	2005 12
加藤貴雄	専門医ではそのような検査が行われるか?	日医新報	4259	53-56	2005 12

論文(原著、綜説)

著者名、所属名	題名	雑誌名	巻(号)	ページ	掲載年月
田島廣之2), 村田 智2), 中澤 賢2), 市川和雄2), 福永 毅2), 隈崎達夫2), 山本剛, 高山守正1), 田中啓治, 高野照夫1) (1)内科学第1, 2)放射線医学)	カテーテル治療	Ther Res	26(6)	1225-1227	2005
石井健輔, 新 博次	薬剤の電気生理学的作用: I群薬	Heart View	9(12)	209-211	2005
新 博次	右脚ブロックの臨床的意義と軸偏位の診断	日本医事新報	4263	108-109	2006 1
清野精彦	急性心不全治療における強心薬の役割: Back to the future	心臓	38(1)	83-87	2006 1
高野仁司, 高野照夫	薬剤溶出ステント導入後の経皮的冠動脈インターベンションの現況と展望(特集: 血管内治療の現況と展望)	Medical Science Digest	32(1)	13-16	2006 1
加藤貴雄	不整脈の上流に目を向ける!!	日医新報	4264	69-72	2006 1
小林義典	牧野論文に対するEditorial Comment: 梗塞心に出現するelectrical stormのメカニズム	心臓	38(1)	31	2006 1
加藤貴雄	薬剤によるQT延長をどのように評価するか: 特にQT間隔計測の実際と問題点(薬剤性QT延長症候群)	心臓	38(1)	4-8	2006 1
加藤貴雄	薬物によるリズムコントロール	Thrombosis and	14(1)	23-28	2006 1
加藤浩司, 清野精彦	不安定狭心症	救急・集中治療	17(臨増)	e39-e45	2006 2
加藤貴雄	QRSの直前・直後に注目!!	日医新報	4268	69-72	2006 2
小林義典	右室流出路からの心室性期外収縮が契機となった特発性心室細動の1例	Cardiovasc Med-Surg	8(1)	87-90	2006 2
木山輝郎1), 三枝英人2), 高野照夫 (1) 外科学第1), 2)耳鼻咽喉科学	栄養摂取量調査からみた栄養サポートチームの必要性	日医大誌	2(1)	32-35	2006 2
坂 宏一1), 田中啓治 (1)国立循環器病センター病院内科心臓血管部門)	開存B型大動脈解離慢性期における治療戦略	脈管学	46(2)	61-66	2006 2
宮本正章	今なぜ「医療用ウジ治療 (MDI)か?	Pharma	24(2)	61-62	2006 2
加藤貴雄	治療 3. 不整脈の薬物療法の現状と展望 2) Sicilian Gambitによる理論的治療選択法とガイドライン (不整脈: 診断と治療の進歩)	日内誌	95(2)	54-60	2006 2
加藤貴雄	実地医にとっての不整脈診療のコツ-問診の重要性(特集: 不整脈治療のマネジメント)	クリニカルプラクティス	25(2)	2	2006 2
篠田暁与	心房細動の治療としての適応を考える	クリニカルプラクティス	25(2)	20	2006 2
新 博次	不整脈治療の原則	日内誌	95(2)	228-233	2006 2
水野杏一	WOSCOPS: West of Scotland Coronary Prevention Study	動脈硬化予防	4(4)	80-81	2006 3
清野精彦	虚血性心疾患の評価と生化学マーカー	心臓	38(3)	301-303	2006 3
水野杏一	血管内視鏡による評価	Heart View	10(3)	128-132	2006 3
高木郁代, 清野精彦	心臓	Vascular Lab	3	58-62	2006 3
清野精彦	「腎不全と心血管イベントの予防」心疾患と腎機能(特集: 慢性腎疾患)	日医雑誌	134(12)	2350-2353	2006 3

【研究報告書】

岸田 浩	循環器系副作用症例及び文献情報からの評価法等の検討に関する研究(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業重篤な循環器系副作用(QT延長症候群等)の症例情報収集・評価およびそれに基づく併用薬剤のリスク因子の解明に関する研究)	厚生労働科学研究費補助金平成17年度分担研究報告書		12-15	2005 4
加藤貴雄, 小原俊彦, 淀川顕司, 高山英男, 高野照夫	Wavelet変換を用いた体表面心電図時間周波数マッピング(wavelet mapping)による致死性不整脈の非侵襲的予知	医科学応用研究財団研究報告2004		42-45	2005 4

論文(原著、総説)

著者名、所属名	題名	雑誌名	巻(号)	ページ	掲載年月
高山守正, 住吉徹哉 ¹⁾ , 長尾 達 ¹⁾ , 山科 章 ¹⁾ , 芝田貴裕 ¹⁾ , 桜田春水 ¹⁾ , 田村 勤 ¹⁾ , 西祐太郎 ¹⁾ , 吉野秀朗 ¹⁾ , 笠貫 宏 ¹⁾ , 三田村秀雄 ¹⁾ , 佐藤直樹, 吉田伸子, 高野照夫 (1)東京都CCU連絡協議会)	心臓病患者家族のためのAED心肺蘇生法全体講習会実施報告	ICUとCCU	29(9)	710-718	2005 9
加藤貴雄	ウェーブレット変換解析による心電図T波とU波の判別 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)	厚生労働科学研究費補助金平成17年度分担研究報告書		88-89	2006 3

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
【教育講演】			
清野精彦	心不全の病態と治療：“subse” strategyの多面的展開	第16回日本病態生理学学会大会	2006 1
【特別講演】			
Mizuno K	Detection and Treatment of Thin Fibrous Cap, Lipid Rich, and Inflammatory Vulnerable Plaque - Angioscopic Evaluation	Angioplasty Summit 2005 TCT Asia Pacific	2005 4
【シンポジウム】			
高野仁司	The Mechanisms of NO derived cardioprotection	第35回日本心臓血管外科学会学術集会	2005 3
宮内靖史, 小林義典, 堀江 格, 岡崎怜子, 丸山光紀, 谷口宏史, 岩崎雄樹, 加藤貴雄, 高野照夫, 新田隆1), 大森裕也1) (1)外科学第2)	複雑心房切開術による開心術後に発症した心房頻拍の特徴とカテーテル・アブレーション(特殊疾患・特殊病態に伴う不整脈に対するカテーテル・アブレーション)	第20回日本心臓ペースンク・電気生理学学会学術大会	2005 5
佐藤信範1), 仁ノ内絵里1), 長田和士1), 上田志朗1), 金子貴俊2), 鈴木聡子2), 岸田 浩 (1)千葉大学大学院薬学研究院医薬品情報学, 2)データインデックス)	QT延長に関する情報学的検討データベース作成の試み	第20回日本心臓ペースンク・電気生理学学会学術大会	2005 5
高野仁司, 高山守正, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高木 元, 高野照夫	Drug Eluting Stent時代のIVUSの役割とその方向性	第11回日本血管内治療学会	2005 7
高野雅充, 村上大介, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一	血管内視鏡による無症候性プラーク破綻の検出ならびに黄色プラークの経時的変化の検出	第37回日本動脈硬化学会	2005 7
勝田倭美, 張 雪君, 大須賀勝	門脈圧亢進症ラットモデルの全身および内臓循環(門脈圧更新症における局所循環亢進)	第12回日本門脈圧亢進症学会総会	2005 9
高野雅充, 水野杏一	Optical Coherence Tomographyを用いた生体冠動脈プラークの組織特性	第19回日本心臓血管内視鏡学会	2005 9
清宮康嗣, 高野雅充, 山本真功, 木股伸恒, 富田和憲, 村上大介, 小川 紅, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 大場崇芳, 大野則彦, 酒井俊太, 奥村 敏, 水野杏一	Drug-Eluting Stent留置後の血管内視鏡所見: 示唆に富む症例	第19回日本心臓血管内視鏡学会	2005 9
山本 剛	大動脈疾患救急ネットワークの構築(大血管疾患救急医療の現状と問題点)	第25回東京CCU研究会	2005 11
加藤貴雄	抗不整脈の種類と使い方(心房細動と突然死)	第130回日本医学会シンポジウム	2005 12
Seino Y, Ogawa A, Yamashita T, Fukumoto Y, Fukushima M, Asai K, Fujita N, Yasutake M, Tanaka K1), Takano T (1)集中治療室)	The Risk of Being Female; Different Clinical Presentation, Pathophysiology, and Diagnostic Limitations in Acute Coronary Syndrome (Long-term Prediction and Prevention of Cardiac Diseases and the Risk Factors)	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Setsuta K1), Seino Y, Takaki M2), Arai M2), Imai T3), Takano T (1)Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 2)Department of Cardiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 3)Marunouchi Clinic)	Ongoing Myocardial Damage is Related to Development of Heart Failure in Patients with Hypertension and Preserved Left Ventricular Systolic Function (Molecular Mechanism of Hypertensive Heart Failure)	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Imai H1), Seino Y, Sasayama S2) (1)Faculty of Economics, Musashi University, 2)Department of Medicine, Hamamatsu Rohsai Hospital)	Cost-Benefit-Analysis of Nocturnal Home-Oxygen-Therapy in Patients with Central Sleep Apnea due to Chronic Heart Failure (Costs of Clinical Practice in Cardiovascular Diseases)	The 70th Anniversary Annual Meeting of the Japanese Circulation Society	2006 3
加藤浩司1), 佐藤直樹1), 山本 剛1), 田中啓治1), 高野照夫 (1)集中治療室)	集中治療におけるエコー検査の役割(集中治療チーム全体で考えよう「集中治療での循環モニター」)	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
淀川顕司1), 岩崎雄樹1), 村井綱児1), 吉川雅智1), 加藤浩司1), 佐藤直樹1), 竹田晋治1), 田中啓治1), 高野照夫 (1)集中治療室)	心電図モニターを見直せ: 重症心室性不整脈に対するICU管理(若手医師ならびに看護師より問題提起があります【集中治療の現場: 循環管理】)	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
加藤浩司, 佐藤直樹, 山本 剛, 田中啓治, 高野照夫1) (1)内科学第1)	集中治療チーム全体で考えよう【集中治療での循環モニター】集中治療における心エコー検査の役割	第33回日本集中治療学会学術集会	2006 3
【セミナー】			
山本 剛	循環器救急疾患におけるDダイマー迅速測定キットの有用性一過性の白血球減少をきたした1例	第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2005 8

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
山本 剛	薬物療法とカテーテル治療の使い分けまたは併用(急性肺塞栓症の重症例に対する診断と治療はいかにあるべきか)	第33回日本集中治療医学学会学術集会	2006 3
【パネルディスカッション】			
大場崇芳1), 酒井俊太1), 村上大介1), 田近研一郎1), 徳山権一1), 稲見茂信1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 畑 典武, 水野杏一1) (1)千葉北総病院内科)	Cypher Stent Post Marketing Study	第14回日本心血管インターベンション学会	2005 6
宮本正章, 安武正弘, 水野博司1), 高野仁司, 高木元, 加藤浩司, 太良修平, 多川政弘2), 工藤圭介, 田畑泰彦3), 高野照夫 (1)日本医科大学形成外科学, 2)日本獣医畜産大学獣医外科, 3)京都大学再生医科学研究所)	重症難治性虚血肢に対する血管新生療法: 自己骨髄細胞移植及びDDS徐放化蛋白を中心とした総合的治療戦略(血管疾患に対する再生療法の長期成績: その治療は本当に有効か?)	第33回日本血管外科学会学術総会	2005 6
加藤浩司	ACS治療のトランスレーショナルリサーチ: ニューデバイスから再生医療まで 重症虚血心筋に対する自家骨髄細胞移植の効果の検討	心筋梗塞研究会	2005 7
奥村 敏1), 稲見茂信1), 高野雅充1), 大場崇芳1), 水野杏一1), 高野照夫, 常松尚志2), 石川義弘2) (1)日本医科大学千葉北総病院循環器センター, 2)横浜市立大学循環制御医学)	成人期の心臓に特異的発現を示す5型アデニル酸シクラーゼの心不全発症に果たす役割とその特異的抑制薬による新しい心不全治療(心不全進展のメカニズムを考慮した分子レベルからの新たな心不全治療戦略)	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
茅野真男1), 是恒之宏1), 西村恒彦2), 中村憲司3), 清野精彦 (1)国立病院機構東京医療センター循環器科, 2)同大阪医療センター, 3)東京女子医科大学成人医学センター)	心房細動におけるワーファリン管理料の医療経済学(費用対効果を考えた心疾患の治療戦略)	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
【ワークショップ】			
大場崇芳, 酒井俊太, 木股仲恒, 富田和憲, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 水野杏一	Usefulness of Intracoronary angiography for detecting the cause of complication after percutaneous coronary intervention	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
宮本正章, 安武正弘, 高木元, 高木都代, 太良修平, 藤本啓志, 大坪春美, 水野博司1), 小池幸子1), 太田眞夫, 高野照夫 (1)形成外科学)	多剤耐性緑膿菌(MDRP)合併糖尿病性壊疽に対する医療用ウジ治療	第20回日本糖尿病合併症学会	2005 10
清野精彦, 小川晃生, 山下照代, 福島正人, 安武正弘	急性冠症候群(ストレス関連疾患)	第42回日本臨床生理学会総会	2005 10
勝田倭実, 張 魯君, 大須賀勝	肝肺症候群ラットモデルの肺内血管拡張と気管支動脈血流量の低酸素血症への関与(肝臓病と肺・門脈循環)	第42回日本臨床生理学会総会	2005 10
清野精彦, 小川晃生, 山下照代, 福本裕子, 福島正人	心・腎相互関連: 心不全に伴う腎機能障害の病態生理(腎不全)	第42回日本臨床生理学会総会	2005 10
【ラウンドテーブルディスカッション】			
高野仁司, 高山守正, 細川雄亮, 大野忠明, 菊池有史, 稲見 徹, 加藤活人, 佐々木朝子, 渋谷俊之, 吉川雅智, 加藤浩司, 川嶋修司, 山根吉人, 坪 宏一, 高木元, 藤田進彦, 山本 剛, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹, 安武正弘, 高野照夫	PTSMAは閉塞性肥大型心筋症に合併した発作性心房細動の抑制に有効か?	第5回PTSMAワークショップ	2004 7
Takano M, Mizuno K	Intracoronary Imaging Modalities-Up to Date	第70回日本循環器学会総会学術集会	2006 3
Yamamoto T1), Murai K1), Yoshikawa M1), Kato K1), Yodogawa K1), Iwasaki Y1), Sato N1), Tanaka K1), Yasutake M, Takano T, Tajima H2) (1)Division of Intensive and Coronary Care Unit, 2)Department of Radiology)	Therapeutic Strategy for Acute Pulmonary Embolism: Current Status and Future Perspectives (Pulmonary Thromboembolism in Japan: Present and Future)	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
【Concurrent Session】			
Mizuno K	Plaque stabilization by coronary intervention	CCT2005 (Complex Catheter Therapeutics 2005)	2005 9
Mizuno K	Detection and treatment of the thin fibrous cap atheroma	CCT2005 (Complex Catheter Therapeutics 2005)	2005 9
【Featured Research Session】			

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
Kitamura M, Takayama M, Kasashima S, Nakamura S, Kikuchi A, Kousugi M, Sasaki A, Kamiya M, Yamamoto E, Takano H, Aoki S, Takano T	Pharmacological Modification on Left Ventricular Hemodynamics in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy to Evaluate Cases for Percutaneous Septal Myocardial Ablation (Frontier of Cardiomyopathy Research)	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
【教育セッション】			
山本 剛	薬物治療とカテーテル(急性肺塞栓症に対する急性期治療と予防)	第27回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会	2005 10
安武正弘	心不全の心筋再生療法(心不全治療:薬物療法から非薬物療法まで)	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
【一般講演】			
Zhang XJ, Ohsuga M, La Hl, Akimoto T, Kato Y, Shimizu S, Komeichi H, Satomura K, Katsuta Y	Chronic Administration of Methylene Blue Ameliorates Hypoxemia in Rats with Chronic Bile Duct Ligation	Vith Sino-Japan Hepato-Pancreato-Biliary Symposium	2005 4
Hirasawa Y, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Yodogawa K, Morita N, Iwasaki Y, Maruyama M, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Takano T	Successful Radiofrequency Ablation of Epicardial Left Ventricular Outflow Tract Tachycardia from the Anterior Interventricular Vein	Heart Rhythm 2005 Scientific Sessions	2005 5
Takayama H, Katoh T, Yodogawa K	The Evaluation of Ischemic Non-sustained Ventricular Tachycardia by Wavelet Transform Analysis	Heart Rhythm 2005 Scientific Sessions	2005 5
Iwasaki Y, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Shinoda A, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Abe J, Hirasawa Y, Yodogawa K, Maruyama M, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Takano T	The Mechanism of the Cycle Length and QRS During Verapamil-sensitive Idopathic Left Ventricular Tachycardia	Heart Rhythm 2005 Scientific Sessions	2005 5
Ishibashi F, Mizuno K, Weiss ER1), Dabreo A1), Sergio W1) (1)Tufts-New England Medical Center)	Quantative Colorimetry of Coronary Plaques in Myocardial Infarction and Stable Angina:Implication for Plaque Colorimetry to Identify Vulnerable Plaques	The Society for Cardiovascular Angiography and Interventions'28th Annual Scientific Sessions	2005 5
Hata N, Kobayashi N, Imaizumi T, Yokoyama S, Shinada T, Ishikawa M, Shiiba K, Suzuki Y, Tanabe J, Mashiko K1) (1)Dept. of Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School)	Efficacy of Air Ambulance System for Treatment of Acute Myocardial Infarction	12th World Congress on Heart Disease	2005 7
Kato K, Sato N, Yamamoto T, Fujita N, Miyagi Y, Tanaka K, Takano T1) (1)The First Department of Internal Medicine)	Safety and efficacy of angio-seal for the removal of intra-aortic balloon pumps:a pilot study	CCT 2005 in kobe	2005 9
Shirakabe A, Takano H, Nakamura S, Kikuchi A, Sasaki A, Yamamoto E, Kawashima S, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yoshikawa M, Kato K, Yamamoto T, Takayama M	Assessing coronary perforation during PCI	CCT2005	2005 9
Kato Y, Fukuma N, Takayama M, Kato K, Honma H, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T	Cause of enhanced ventilatory response in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy	American Heart Associations 2005 Scientific Sessions	2005 11
Fukuma N, Tsuchida T, Ushijima A, Kato K, Kimura-Kato Y, Aisu N, Mabuchi K, Takano T	Heart rate response to exercise and sympathetic excitability through the baroreflex mechanism	American Heart Associations 2005 Scientific Sessions	2005 11
Seino Y, Ogawa A, Yamashita T, Fukumoto H, Fukushima M, Takano T	Difference in elevation of N-terminal pro-BNP and conventional cardiac markers between patients with ST elevation versus non-ST elevation acute coronary syndrome	American Heart Associations 2005 Scientific Sessions	2005 11
Takagi G, Takagi I, Arakawa M1), Tara S, Yasutake M, Shidara Y2), Shigeo O1), Miyamoto M, Takano T (1)第二病院, 2)東京女子医科大学)	Novel anti-cell death protein (FNK) enhances angiogenesis and preserves myocardium after myocardial infarction in swine	American Heart Associations 2005 Scientific Sessions	2005 11
Miyauchi Y	Radiofrequency Catheter Ablation of Persistent Atrial Tachycardia Following Radial Procedure for Atrial Fibrillation	The 1st Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium	2005 12

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
Maruyama M	Fascicular Ventricular Tachycardia: Current Concepts	American College of Cardiology 2006 Annual Meeting	2006 3
Nakamura S1), Suzuki T2), Terashima M2), Akasaka T2), Hayashi T3), Mizuno K, Muramatsu T4), Nakamura M1), Takayama T5), Yoshikawa J6), Yamaguchi T2) (1)Toho University Ohashi Medical Center, 2)Toranomon Hospital, 3)Kinki University School of Medicine, 4)Kawasaki Social Insurance Hospital, 5)Nihon University Itabashi Hospital, 6)Osaka City University Medical School Hospital)	Safety and Feasibility of a Novel Intravascular Optical Coherence Tomography Image Wire System in a Clinical Setting-Japanese Multicenter Study	American College of Cardiology 2006 Annual Meeting	2006 3
Tajika K, Ogawa B, Murakami D, Tokuyama K, Inami S, Seimiya K, Takano M, Takayoshi O, Ohno N, Nomura A, Okumura S, Okamatsu K, Mizuno K	Malondialdehyde-modified LDL(MDA-LDL) is a Novel Marker as Instability of Coronary Plaque: Angioscopic Analysis	American College of Cardiology 2006 Annual Meeting	2006 3
Okamatsu K, Inami S, Yokoyama S1), Takano M, Seimiya K, Ohba T, Ishibashi F, Hata N1), Mizuno K (1)千葉北総集中治療室)	Comparison between Culprit and Nonculprit Lesions in Patients with Multiple Plaque Ruptures and Acute Coronary Syndrome	American College of Cardiology 2006 Annual Meeting	2006 3
Inami S, Sakai S, Ishibashi F, Okamatsu K, Ogawa B, Murakami D, Tajika K, Seimiya K, Takano M, Ohba T, Ohno N, Nomura A, Okumura S, Mizuno K	C-Reactive Protein May Be Absorbed Through Yellow Plaque and Lead to the Formation of Vulnerable Plaque	American College of Cardiology 2006 Annual Meeting	2006 3
川嶋修司, 高野仁司, 吉川雅智, 高木 元, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 高野照夫, 飯野 靖彦1) (1)内科学第2)	心臓カテーテル検査後の予防的血液透析は腎機能低下例の造影剤腎症を予防するか?	第102回日本内科学会講演会	2005 4
畑 典武, 今泉孝敏, 横山真也, 小林宣明, 品田卓郎, 石川昌弘, 椎葉邦人, 鈴木雄一朗, 松本 尚1), 益子邦洋1) (1)千葉北総病院救急救命センター)	急性心筋梗塞治療におけるドクターヘリ搬送の意義	第102回日本内科学会講演会	2005 4
佐藤 越, 石井健輔, 宮本新次郎, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次	甲状腺中毒症における心電図所見の検討	第102回日本内科学会講演会	2005 4
丸山光紀, 小林義典, 宮内靖史, 岩崎雄樹, 小原道雄, 岡崎怜子, 上野 亮, 館岡克彦, 谷口宏史, 堀江 格, 阿部純子, 平澤泰宏, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤 貴雄, 高野照夫, 宮本新次郎1), 田寺 長1), 井野 威1), 新 博次1) (1)多摩永山病院内科, 循環器科)	心房粗動に対する下大静脈・三尖弁輪間峡部アブレーションにおける新しいsimplified approachの検討	第20回日本心臓ペースン グ・電気生理学学会学術大会	2005 5
館岡克彦, 小野卓也, 岩崎雄樹, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次1) (1)多摩永山病院内科, 循環器科)	神経調節性失神に対する飲水負荷の血行動態への影響: Physio Flowを用いた検討	第20回日本心臓ペースン グ・電気生理学学会学術大会	2005 5
飯倉潮人1), 小野卓哉, 館岡克彦, 淀川顯司, 岩崎雄樹, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次2) (1)波崎済生病院内科, 2)日本医科大学多摩永山病院内科, 循環器科)	自動診断心電図におけるQT間隔延長の特色	第20回日本心臓ペースン グ・電気生理学学会学術大会	2005 5
堀江 格, 宮内靖史, 小林義典, 村田広茂, 藤田 暁与, 小原道雄, 岡崎怜子, 上野 亮, 館岡克彦, 谷口宏史, 平澤泰宏, 阿部純子, 淀川顯司, 岩崎雄樹, 林 明雄, 丸山光紀, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤 貴雄, 高野照夫	Reserved common atrial flutter のリエントリー回路: electroanatomical mappingを用いた entrainment mappingによる検討	第20回日本心臓ペースン グ・電気生理学学会学術大会	2005 5
村上天介, 天場崇芳, 富田和憲, 小川 紅, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 川口直美, 野村教宣, 奥村 敏, 酒井俊太, 水野杏一	テクロピジンが禁忌なステント再狭窄に対しPCIを施行し, 難治した1例	第26回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会	2005 5
藤田進彦, 村上天介, 川嶋修司, 田中古登子, 宮本正章, 太田真夫, 橋本英洋, 高野照夫	持効型インスリン・グラルギンの使用状況と臨床効果	第48回日本糖尿病学会年次学術集会	2005 5
田中古登子, 川嶋修司, 藤田進彦, 宮本正章, 太田真夫, 橋本英洋, 高野照夫	2型糖尿病の各種合併症と接着因子及び凝固線溶系関連因子との検討	第48回日本糖尿病学会年次学術集会	2005 5
高野仁司, 白鷺章宏, 鈴木浩臣, 中村俊一, 稲見 敏, 佐々木朝子, 山本英世, 吉川雅智, 加藤浩司, 川嶋修司, 坪 宏一, 高木 元, 藤田進彦, 山本 剛, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正, 高野照夫	The Merits and demerits of multiple-sirolimus stents implantation for one diseased vessel	第14回日本心臓血管インターベンション学会	2005 6
吉川雅智, 高野仁司, 川嶋修司, 高木 元, 青木 聡, 浅井邦也, 加藤浩司, 坪 宏一, 藤田進彦, 山本 剛, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正, 高野照夫	Clinical outcome after percutaneous coronary intervention in patients with end-stage renal disease	第14回日本心臓血管インターベンション学会	2005 6

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
森下登史1), 藤田進彦1), 加藤浩司1), 淀川頼司1), 岩崎雄樹1), 宮城泰雄1), 坪 宏一1), 山本 剛1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 馬淵浩輔, 高野照夫, 山田研一2), 別府竜蔵2), 落 雅美2) (1)集中治療室, 2)外科学第2)	偽性仮性心室瘻の形成を経時的に観察した下壁心筋梗塞の1例	第196回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2005 6
藤本啓志, 宮本正章, 山下照代, 丸山光紀, 高野仁司, 小林義典, 清野精彦, 高野照夫	多剤耐性緑膿菌(MDRP)合併糖尿病性壊疽に対して医療用ウジ治療が有効であった1例	第196回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2005 6
小杉宗範1), 清宮康嗣, 村上天介, 小川 紅, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 高野雅充, 大場崇芳, 川口直美, 野村敦宣, 酒井俊太, 奥村 敏, 水野杏一 (1)千葉北総病院放射線科)	偏頭痛により判明した, 卵円孔開存 (patent foramen ovale)を合併した脳梗塞の1例	第196回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2005 6
本間 博, 菅谷寿里1), 加藤政利1), 吉田由紀子1), 竹田裕子1), 中村利枝1), 齋藤公一1), 福岡長知, 加藤貴雄, 加藤和代, 加藤祐子, 高野照夫 (1)生理機能センター)	心筋梗塞後の抑うつが心拍変動におよぼす影響について	第25回ホルター心電図研究会	2005 6
佐藤 越, 緒方憲一, 草間芳樹, 新 博次	当院内科外来通院中の高齢者甲状腺機能異常例とその臨床的背景の検討	第47回日本老年医学会学術集会	2005 6
村澤恒男, 酒井行直, 網谷賢一, 宗像一雄	維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図とARI dispersionの変動: 不整脈基質への関与	第48回日本腎臓学会学術総会	2005 6
村澤恒男1), 酒井行直1), 小野卓哉, 伊佐治剛1), 網谷賢一1), 原田英博1), 宗像一雄1) (1)第二病院内科)	維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図とARI dispersionの変動: 両者の関連性	第50回日本透析医学会学術集会・総会	2005 6
網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 尾崎 傑1), 磯野友昭1), 市川 匠1), 門松 豊1) (1)第二病院血液浄化療法室)	維持透析患者の心室性不整脈と血液透析前後の細胞内外水分量変化, ANP, BNP, との関連について	第50回日本透析医学会学術集会・総会	2005 6
磯野友昭1), 尾崎 傑1), 市川 匠1), 門松 豊1), 大野 大, 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (1)第二病院血液浄化療法室)	難治性ネフローゼ症候群に対する二種類のLDLアフェレーシスによる治療効果の検討: 第二報	第50回日本透析医学会学術集会・総会	2005 6
尾崎 傑1), 磯野友昭1), 市川 匠1), 門松 豊1), 大野 大, 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (1)第二病院血液浄化療法室)	ポリアーテルスルホンダイアライザー PES-150DSの性能評価	第50回日本透析医学会学術集会・総会	2005 6
白壁章宏, 高野仁司, 中村俊一, 鈴木浩臣, 佐々木朝子, 稲見 徹, 山本英世, 吉川雅智, 川嶋修司, 高木元, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 加藤浩司, 藤田進彦, 山本 剛, 佐藤直樹, 高山守正, 高野照夫	PCI中に合併した冠動脈穿孔例7例の検討	第11回日本血管内治療学会	2005 7
田近研一郎, 小川 紅, 村上天介, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太, 小谷一夫1), 水野杏一 (1)第一化学薬品)	プラークの色調とMDA-LDLの関係	第11回日本血管内治療学会	2005 7
清宮康嗣, 水野杏一, 小川 紅, 村上天介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太	血管内視鏡から見たプラークの安定化	第11回日本血管内治療学会	2005 7
木股仲恒, 小杉宗範1), 奥村 敏, 水野杏一, 川俣博志1), 桑子智之1), 小倉順子1), 木島鉄仁1), 岡田進1), 田島廣之2), 隈崎達夫2) (1)千葉北総病院放射線科, 2)付属病院放射線科)	抗凝固療法中の腰部出血による巨大後腹膜血腫に対して経カテーテル的動脈塞栓術が有効であった1例	第11回日本血管内治療学会	2005 7
加藤政利1), 加藤和代, 福岡長知, 五十嵐亜希1), 平野美子1), 中村利枝1), 菅谷寿理1), 齋藤公一1), 牛島明子, 愛須紀子, 土田貴也, 岸田 浩, 高野照夫 (1)生理機能センター)	非侵襲的経皮的測定装置による運動負荷時炭酸ガス分圧評価の意義	第11回日本心臓リハビリテーション学会	2005 7
中村利枝1), 加藤祐子, 福岡長知, 加藤政利1), 竹田裕子1), 平野美子1), 菅谷寿理1), 齋藤公一1), 土田貴也, 愛須紀子, 岸田 浩, 高野照夫 (1)生理機能センター)	下肢ペダリング運動の回転数変化に伴う呼吸のEntrainment現象について	第11回日本心臓リハビリテーション学会	2005 7
菅谷寿理1), 福岡長知, 本江雪貴美1), 和泉有紀子1), 加藤政利1), 吉田由紀子1), 五十嵐亜希1), 中村利枝1), 齋藤公一1), 加藤和代, 加藤祐子, 岸田浩, 高野照夫 (1)生理機能センター)	抑うつスコア定値である心筋梗塞患者における酸化ストレスマーカー	第11回日本心臓リハビリテーション学会	2005 7
宮本正章, 高木 元, 安武正弘, 高野仁司, 太良修平, 藤本啓志, 大坪春美, 高野照夫	医療用ウジを用いた多剤耐性緑膿菌感染合併重症糖尿病壊疽治療	第26回日本炎症・再生医学会	2005 7
菊池有史, 丸山光紀, 山脇秀元, 稲見 徹, 大野忠明, 高野仁司, 本間 博, 清野精彦, 勝田倭美, 高野照夫	肺動静脈★を合併した難治性僧房弁狭窄症の1例	第528回日本内科学会関東地方会	2005 7
網谷賢一, 竹野沙織, 宗像一雄	治療中に中心静脈栄養カテーテル穿刺にて縦隔炎を来した1例	第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2005 8

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
吉田結富子1), 寺嶋克幸1), 竹田晋浩1), 赤田信二1), 山本 剛1), 佐藤直樹1), 金 徹2), 北村 晶2), 池崎弘之2), 中西一浩2), 設楽敏朗2), 田中啓治1), 高野照夫, 坂本篤裕2) (1)集中治療室, 2)麻酔科学)	当院集中治療室におけるランジオロールの使用状況	第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2005 8
白壁章弘, 高山守正, 藤本啓志, 大野忠明, 佐藤直樹1), 中西一浩2), 田中啓治1), 高野照夫 (1)集中治療室, 2)麻酔科学)	著明な左室内閉塞を有する閉塞性肥大型心筋症への非心臓手術の戦略	第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2005 8
鈴木浩臣, 横山真也, 斉藤友香1), 鈴木雄一朗, 椎葉邦人, 田邊 潤, 品田卓郎, 今泉孝敬, 三浦剛史1), 坪井成美1), 畑 典武 (1)千葉北総病院泌尿器科)	IL-6が異常高値を示し, Toxic Shock Syndromeが疑われた1例	第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2005 8
吉田博史, 雪吹周生, 宮地秀樹, 時田祐吉, 石井健輔, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次	右冠動脈蛇行病変へのステントバルーン到達難を生じたPCIの1例: インナーガイドカテの功罪	第14回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2005 8
加藤祐子, 福岡長知, 高山守正, 加藤和代, 牛島明子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 草間芳樹, 岸田浩, 高野照夫	閉塞性肥大型心筋症における運動時の換気亢進についての検討	第55回循環器負荷研究会	2005 8
張 雪君, 大須賀勝, 秋元敏雄1), 宮元亮子, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 勝田憐美 (1)実験動物管理室)	肝肺症候群ラットモデルにおけるメチレンブルーの動脈血酸素化に対する効果	第12回日本門脈圧亢進症学会総会	2005 9
岡松健太郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 小川 紅, 田近研一郎, 村上大介, 大野則彦, 野村敦宣, 奥村 敏, 横山真也1), 畑 典武1), 水野杏一 (1)千葉北総病院集中治療室)	ブランク破綻後の急性冠症候群進展と病変形態	第19回日本心臓血管内視鏡学会	2005 9
田近研一郎, 小川 紅, 村上大介, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 大野則彦, 野村敦宣, 酒井俊太, 奥村 敏, 小谷一夫1), 水野杏一 (1)第一化学薬品)	ブランクの色調とMDA-LDLの関係	第19回日本心臓血管内視鏡学会	2005 9
時田祐吉1), 岡田 薫1), 宮地秀樹1), 松本 真1), 緒方憲一1), 小谷英太郎1), 田寺 長1), 雪吹周生1), 本間 博, 草間芳樹1), 新 博次1) (1)多摩永山病院内科, 循環器科)	救急外来での急性心臓血管疾患の初期診断におけるD-dimer迅速測定の有用性	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
山本 剛1), 佐藤直樹1), 吉川雅智1), 加藤浩司1), 淀川顯司1), 岩崎雄樹1), 坪 宏一, 藤田進彦, 安武正弘, 田中啓治1), 高野照夫 (1)集中治療室)	非ST上昇型急性冠症候群におけるBNP: 統合的リスクマーカーとしての有用性	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
加藤政利1), 福岡長知, 菅谷寿里1), 吉田由紀子1), 竹田裕子, 中村利枝1), 斉藤公一1), 加藤和代, 加藤裕子, 土田貴也, 本間 博, 高野照夫 (1)生理機能センター)	経皮的炭酸ガス分圧測定装置により測定された運動負荷時炭酸ガス分圧の意義	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
中込明裕1), 清野精彦, 青木 聡, 遠藤康実, 草間芳樹1), 高山守正, 新 博次1), 高野照夫 (1)多摩永山病院内科, 循環器科)	スタチンは慢性心不全において心筋トロポニンTを低下させ, 心機能, 予後を改善させる	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
高山守正, Montepulse Pms Study Group	急性心筋梗塞への修飾t-PA一回静注の多施設臨床成績: Montepulse市販後全国集計調査によるreal world result	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
高山守正, Montepulse Pms Study Group	修飾t-PA montepulseによる脳出血合併の危険と安全性: 市販後全国集計調査による急性心筋梗塞2, 823例への臨床現場での成績	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
大塚俊明1), 宮地秀樹, 時田祐吉, 石井健輔, 吉田博史, 小谷英太郎, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次 (1)衛生学・公衆衛生学)	指尖容積加速度脈波による冠動脈疾患リスク判定の試み: 地域健康診断における横断研究	第53回日本心臓病学会学術集会	2005 9
関野玲子1), 松崎つや子1), 佐藤淳子1), 水瀬 学1), 後藤弘子1), 見友優子1), 斉藤公一1), 本間 博1), 藤本啓志, 東 春香, 横島友子, 福岡祐美子, 安武ひろ子, 伊藤恵子, 上野 亮, 大野忠明, 高野照夫 (1)生理機能センター)	2次元ストレイン法による新しい左室新機能評価	第73回日本医科大学医学会総会	2005 9
小澤明子1), 秋元直彦1), 北嶋俊寛1), 水谷康彦1), 横澤裕美1), 田村浩一2), 塚田克也2), 杉崎祐一2), 新田 隆3), 山内仁紫3), 神戸 将3), 野口智子3), 菅野重人3), 清野精彦, 岡崎怜子 (1)医学部第3学年, 2)病理部, 3)外科学第2)	心房中隔欠損症・発作性心房細動に対する手術で切除された左心耳組織所見から心臓サルコイドーシスの診断に至った1例	第73回日本医科大学医学会総会	2005 9
菅谷寿里1), 和泉有紀子1), 加藤政利1), 吉田由紀子1), 竹田裕子1), 平野美子1), 中村利枝1), 齊藤公一1), 本間 博1), 福岡長知, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫 (1)生理機能センター)	急性心筋梗塞患者における抑うつと酸化ストレスマーカー8-iso-prostaneの関係	第73回日本医科大学医学会総会	2005 9

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
柴田康史1), 飯野幸水1), 里村克章, 久志本茂樹2), 山本保博2) (1)中央検査部, 2)高度救命救急センター)	細菌感染症におけるプロカルシトニン測定の有 用性	第73回日本医科大学医学 会総会	2005 9
大須賀勝, 張 雪君, 秋元敏雄1), 宮元亮子, 加藤良 人, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 勝田悌実 (1)実験動物管理室)	長期生存2次性胆汁性肝硬変ラットは門脈圧亢進 症における前方説に従う	第9回日本肝臓学会大会	2005 9
関口昭子1), 山下武志1), 加藤武史1), 相良耕一1), 飯沼宏之1), 伝 隆泰1), 相沢忠範1), 岩崎雄樹, 大 塚崇之2), 常田孝幸3) (1)心臓血管研究所, 2)東邦 大学医学部大森病院, 3)富山医薬大学 内科学第2)	心房細動による心房内皮障害予防:オルメサルタ ンの意義	日本心電図学会学術集会	2005 9
加藤浩司1), 藤田進彦1), 山本 剛1), 岩崎雄樹1), 淀川顕司1), 吉川雅智1), 米沢光平1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高山守正, 高野照夫 (1)集中治療室)	急性心筋梗塞と大動脈弁狭窄症による心原性 ショックに対して積極的治療によりショック離 脱可能であった1例	第197回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2005 10
岡崎裕子, 淀川顕司, 高野仁司, 小林義典, 高山守 正, 清野精彦, 高野照夫	LDLアフェレーシスおよびステロイド療法が著 効したCholesterol Crystal Embolism(CCE)の1 例	第197回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2005 10
田近研一郎, 西條由之, 安藤友一, 秋谷麻衣, 山本真 功, 木股伸恒, 富田和憲, 村上大介, 小川 紅, 徳山 権一, 稲見茂信, 高野雅充, 清宮康嗣, 大場崇芳, 川 口直美, 野村敦宣, 奥村 敏, 水野杏一, 横瀬紀夫, 荒井 悟1), 大秋美治1) (1)千葉北総病院病理部)	4弁の疣贅と疣贅を複数の左右短絡を認めた感染 性心内膜炎の1例	第197回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2005 10
菊池有史, 横山真也, 鈴木雄一朗, 椎葉邦人, 品田卓 郎, 今泉孝敬, 畑 典武	AED頻回使用により救命した院外発生心肺停止 の1例	第197回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2005 10
岡田 薫, 石井健輔, 宮地秀樹, 時田祐吉, 小谷英太 郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次, 菅野 重人1), 新田 隆1) (1)外科学第2)	大動脈弁逸脱症に対して弁置換術を施行した1例	第197回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2005 10
岡松健太郎1), 稲見茂信1), 清宮康嗣1), 高野雅充 1), 大場崇芳1), 小川 紅1), 田近研一郎1), 村上大 介1), 大野則彦1), 野村敦宣1), 奥村 敏1), 横山真 也, 畑 典武, 水野杏一1) (1)日本医科大学千葉北 総病院内科)	ブランク破綻後の急性冠症候群進展と病変形態	第19回日本心臓血管内視 鏡学会学術研究集会	2005 10
板倉潮人1), 小野卓哉, 館岡克彦, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 宗像一雄2), 加藤貴雄, 高野照夫 (1)波崎済生病院内科, 2)日本医科大学第二病院内 科)	自動診断心電図にてQT延長とされた心電図のJT 間隔とQRSの特徴	第22回日本心電学会学術 集会	2005 10
小野卓哉, ナトコヴァカテリナ1), 板倉潮人2), 館岡 克彦, 岩崎雄樹, 小林義典, 本間 博, 斎藤寛和, 加 藤貴雄, 高野照夫, マリックマレック1) (1)聖 ジョージ病院循環器科, 2)波崎済生病院内科)	T-wave morphology analysis における疾患別特 徴:心筋症と心筋梗塞の相違	第22回日本心電学会学術 集会	2005 10
村井綱児, 山本 剛, 吉川雅智, 加藤浩司, 小杉宗範 1), 北村光信1), 白壁章宏1), 中村俊一1), 菊池有史 1), 佐々木朝子1), 山本英世1), 川嶋修司1), 藤田進 彦1), 高木 元1), 高野仁司1), 青木 聡1), 浅井邦也 1), 佐藤直樹, 安武正弘1), 高山守正1) (1)内科学第1)	右冠動脈の巨大血栓に対して5Fr インナーカ テーテルによる血栓吸引が有効であった急性心 筋梗塞の1例	第27回日本心臓血管イン ターベンション学会関東 甲信越地方会	2005 10
小川 紅, 稲見茂信, 水野杏一, 石崎聡之1) (1)順 天堂大学スポーツ健康科学部)	低強度筋力トレーニングの血管内皮機能に及ぼ す影響	第42回日本臨床生理学会	2005 10
安武ひろ子, 大野忠明, 藤本啓志, 東 春香, 横島友 子, 福間祐美子, 伊藤恵子, 本間 博, 高野照夫, 松 崎つや子1) (1)生理機能センター)	80才以上の高齢者においてドブタミン負荷心エ コー法は有用か?	第42回日本臨床生理学会 総会	2005 10
谷口宏史, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	ベラパミル感受性左室特発性頻拍のリエン トリー回路:カルトシステムを用いた検討	第42回日本臨床生理学会 総会	2005 10
加藤政利1), 福間長知, 本間 博, 中村利枝1), 菅谷 寿理1), 齋藤公一1), 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀 子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫 (1)生理機能セ ンター)	運動負荷時経皮炭酸ガス分圧変動の意義	第42回日本臨床生理学会 総会	2005 10
菅谷寿理1), 福間長知, 本間 博, 加藤政利1), 中村 利枝1), 齋藤公一1), 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀 子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫 (1)生理機能セ ンター)	心筋梗塞における抑うつと自律神経機能障害	第42回日本臨床生理学会 総会	2005 10
福島正人, 與田小百合, 吉田博史, 石井健輔, 佐藤 越, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草 間芳樹, 新 博次	高血圧, 糖尿病例における左室弛緩障害の検討	第42回日本臨床生理学会 総会	2005 10
野呂瀨準, 加藤浩司, 吉川雅智, 淀川顕司, 岩崎雄 樹, 宮城泰雄, 山本 剛, 寺嶋克幸, 佐藤直樹, 竹田 晋浩, 田中啓治, 落 雅美2), 小杉宗範1), 高野照夫 1) (1)内科学第1, 2)外科学第2)	バイパス術後早期のぐらふと閉塞に対して経皮 的冠インターベンションが有効であった高齢者 不安定狭心症の1例	第42回日本老年医学会関 東甲信越地方会	2005 10

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
佐藤直樹, 山本 剛, 藤田進彦, 岩崎雄樹, 淀川顯司, 加藤浩司, 高野照夫1), 田中啓治 (1)内科学第1)	Etiology of Acute Heart Failure from 1980 to 2004 in Cardiac Care Unit of Nippon Medical School	第9回日本心不全学会学術集会	2005 10
Takahashi N, Yamamoto A1), Iwahara S2), Tetsuka S, Takenaga K, Amitani K, Yamaguchi T, Uchida T, Hoshino K, Munakata K (1)Department of Radiology, 2nd Hospital NMS, 2)Minamimachida Hospital)	The Correlation between Regional Systolic-diastolic Functions Assessed by a Novel Program "cardioGRAF" and BNP in Patients with Non-ischemic CHF	第9回日本心不全学会学術集会	2005 10
新真理子1), 山本 剛1), 小串聡子1), 村井綱児1), 吉川雅智1), 岩崎雄樹1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 中澤 賢2), 田島廣之2), 隈崎達夫2), 神谷仁孝3) (1)集中治療室, 2)放射線科, 3)稲田登戸病院循環器科)	肺癌様の腫瘍陰影を呈した肺塞栓の1例	第12回肺塞栓症研究会・学術集会	2005 11
牧野俊郎1), 浅野悦洋1), 恵志正輝1), 村越秀光1), 今泉孝敬, 畑 典武, 山本保博2) (1)成田国際空港クリニック, 2)救急医学)	航空機に起因した肺血栓塞栓症の検討	第12回肺塞栓症研究会学術集会	2005 11
山本 彰1), 高橋直人, 宗像一雄, 隈崎達夫2) (1)第二病院放射線科, 2)付属病院放射線科)	cardioGRAFを用いた左室局所壁運動評価におけるフーリエ級数の影響について: 心臓超音波検査との比較検討	第45回日本核医学総会	2005 11
牧野俊郎1), 浅野悦洋1), 村越秀光1), 恵志正輝1), 畑 典武, 益子邦洋2) (1)成田国際空港クリニック, 2)千葉北総病院救急救命センター)	成田空港と救急医療	第51回日本宇宙航空環境医学会大会	2005 11
藤田進彦, 高山守正, 佐々木朝子, 菊池有史, 藤本啓志, 大野忠明, 小原俊彦, 高野照夫, 別所竜蔵1), 新田 隆1), 落 雅美1), 西谷一晃2) (1)外科学第2, 2)十善病院)	分離型大動脈弁下狭窄症に合併した閉塞性肥大型心筋症の1例	第198回日本循環器学会関東甲信越地方会	2005 12
吉田明日香1), 山本 剛1), 吉川雅智1), 加藤浩司1), 淀川顯司1), 岩崎雄樹1), 宮城泰雄1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 平澤泰宏, 安武正弘, 高野照夫, 山口博樹2) (1)集中治療室, 2)内科学第3)	特発性血小板減少症を合併した劇症型心筋炎に対し補助循環, γグロブリン大量療法を行い救命できた1例	第198回日本循環器学会関東甲信越地方会	2005 12
木股仲恒, 富田和憲, 小川 紅, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大野則彦, 大野則彦, 大場崇芳, 野村教宣, 奥村 敏, 水野杏一	薬剤溶出性ステント留置31ヶ月後に遅発性血栓症を起こした1例	第198回日本循環器学会関東甲信越地方会	2005 12
小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次	一年を経て顕性化した感染経路不明の原発性細菌性心外膜炎の1例	第198回日本循環器学会関東甲信越地方会	2005 12
神谷仁孝, 高野仁司, 村井綱児, 藤田進彦, 高木元, 山本 剛, 青木 聡, 浅井邦也, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正, 高野照夫		第19回日本冠疾患学会	2005 12
田近研一郎, 小川 紅, 村上大介, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 大野則彦, 岡松健太郎, 野村教宣, 奥村 敏, 小谷一夫1), 水野杏一 (1)第一化学薬品)	プラークの色調とMDA-LDLの関係	第19回日本冠疾患学会	2005 12
馬淵浩輔, 福岡長知, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 草間芳樹, 高野照夫	経皮硝酸薬による皮膚刺激に関する検討: クロスオーバー法による検討	第26回日本臨床薬理学会年会	2005 12
畑 典武, 稲本正之1), 荒木綾子1), 福田恵子1), 柴田晶子1), 落合好乃1) (1)千葉北総病院治験推進室)	市販後(製造販売後)使用成績調査のIRB審査についての検討	第26回日本臨床薬理学会年会	2005 12
篠田曉与, 草間芳樹, 奥田小百合, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 中込明裕, 雪吹周生, 新 博次	高血圧症患者における左室拡張機能障害の検討: 降圧薬との関連	第26回日本臨床薬理学会年会	2005 12
高木 元, 高木郁代, 佐藤直樹, 太良修平, 安武正弘, 宮本正章, 高野照夫, 荒川正行1), 設楽雄次郎1, 2), 麻生定光1), 太田成男1) (1)加齢科学・細胞生物学, 2)東京女子医科大学第二病理学分野)	新規細胞死抑制蛋白(PTD-FNK)による血管新生効果及び心筋保護作用	第46回日本脈管学会総会	2005 12
坪 宏一1,2), 山本 剛1), 藤田進彦1), 笠神康平1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 東 春香, 高野照夫 (1)集中治療室, 2)国立循環器病センター)	急性大動脈解離におけるD-dimer値の経時的変化とその測定意義	第46回日本脈管学会総会	2005 12
中沢 賢1), 田島廣之1), 村田 智1), 隈崎達夫1), 市川和雄1), 福永 毅1), 小野沢志郎1), 佐藤英尊1), 林 宏光1), 山本 剛, 田中啓治, 高野照夫 (1)放射線医学)	急性現状肺動脈血栓塞栓症に対する血栓溶解法の有用性: 肺動脈圧と遠隔塞栓の関係	第46回日本脈管学会総会	2005 12
清宮康嗣, 高野雅充, 山本真功, 木股仲恒, 富田和憲, 村上大介, 小川 紅, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 大場崇芳, 大野則彦, 酒井俊太1), 奥村敏, 水野杏一 (1)酒井医院)	Drug-Eluting Stent留置後の血管内視鏡所見: 示唆に富む症例	第16回日本心血管画像動態学会	2006 1

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
大場崇芳1), 廣瀬知人1), 木俣伸恒1), 山本真功1), 富田和憲1), 村上大介1), 徳山権一1), 田近研一郎1), 稲見茂信1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 畑典武, 水野杏一) (1)千葉北総病院内科)	Cypher ステント留置6ヶ月後の興味ある血管内視鏡所見	第16回日本心血管画像動態学会	2006 1
福高正人, 篠田暁与, 宗像 亮, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 長澤紘一1), 新博次 (1)長澤医院)	成人脚ブロック患者における背景疾患と心臓超音波所見の特徴	第40回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会	2006 1
篠田暁与, 藤田進彦, 村上大介, 川嶋修司, 田中古登子, 宮本正章, 太田眞夫, 橋本英洋, 高野照夫	糖尿病を合併した特発性膵石症の1例	第43回日本糖尿病学会関東甲信越地方会	2006 1
田近研一郎, 高野雅充, 大場崇芳, 大野則彦, 野村敦宣, 酒井俊太, 小谷一夫, 水野杏一	ブラーケの色調とMDA-LDLの関係	第103回日本内科学会	2006 2
淀川顕司, 森田典成, 高山英男, 小原俊彦, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	Brugada症候群における高周波成分の変動とその意義: Wavelet変換法を用いた検討	第16回体表心臓微小電位研究会	2006 2
西城由之, 山本真功, 富田和憲, 小川 紅, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 野村敦宣, 水野杏一	有茎性の左室内血栓に高用量経静脈ヘパリンが著効した1例	第199回日本循環器学会関東甲信越地方会	2006 2
小俣喜芳1), 加藤貴雄 (1)ムトウテクノス)	インターネット上のディスクスペースを利用したホルター心電図伝送ならびに解析評価	第3回心電図伝送システム研究会	2006 2
田中啓治, 佐藤直樹, 山本 剛, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 加藤浩司, 吉川雅智, 村井綱児, 高山守正, 高野照夫	学齢者大動脈弁狭窄症の病態と対策	第103回日本内科学会総会・年次講演会	2006 3
赤田信二, 竹田晋浩, 寺嶋克幸1), 中西一浩1), 小林克也1), 小野寺英貴1), 田中啓治, 坂本篤裕1) (1)麻酔科学)	集中治療室における非侵襲的陽圧換気(NPPV)の使用状況の推移	第33回日本集中治療医学会	2006 3
山本 剛1), 寺嶋克幸1), 加藤浩司1), 淀川顕司1), 岩崎雄樹1), 宮城泰雄1), 佐藤直樹1), 竹田晋浩1), 田中啓治1), 高野照夫 (1)集中治療室)	PCPS回路交換後に高サイトカイン血症による一過性白血球減少をきたした1例	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
高橋明子1), 加藤浩司1), 山本 剛1), 佐藤直樹1), 野呂瀬準1), 岩崎雄樹1), 金子朋広2), 阿部信二3), 田中啓治1), 高野照夫 (1)集中治療室, 2)内科学第2, 3)内科学第4)	心病変を認めた顕微鏡的多発血管炎に対して血漿交換, ステロイド, シクロホスファミドを用いて改善した1例	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
岩崎雄樹1), 加藤浩司1), 淀川顕司1), 坪 宏一1), 山本 剛1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 宮内靖史, 小林義典, 高野照夫 (1)集中治療室)	重症心室性不整脈発症の契機となる心室性期外収縮の12誘導心電図の特徴	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
中込昭裕1), 時田祐吉1), 吉田博史1), 石井健輔1), 小谷英太郎1), 雪吹周生1), 草間芳樹1), 清野精彦, 新 博次1), 高野照夫 (1)多摩永山病院内科)	カルベジロールは慢性心不全患者において単球MCP: 1産生を抑制し左室機能を改善する	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
佐藤直樹1), 山本 剛1), 岩崎雄樹1), 淀川顕司1), 加藤浩司1), 村井綱児1), 寺嶋克幸1), 竹田晋浩1), 高野照夫, 田中啓治1) (1)集中治療室)	腎保護効果からみたナトリウム利尿ペプチドとフロセミド併用療法の問題点	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
鈴木規仁1), 竹田晋浩, 赤田信二, 寺嶋克幸1), 中西一浩1), 本郷 卓, 田中啓治, 坂本篤裕1) (1)麻酔科学)	非侵襲的陽圧換気(NPPV)施行時の鎮静: デクスメデトミジンの効果	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
品田卓郎, 畑 典武, 小林宣明, 鈴木雄一朗, 椎葉邦人, 田邊 潤, 横山真也, 今泉孝敬	急性心筋梗塞治療におけるドクターヘリ搬送の意義	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
横山真也, 鈴木雄一朗, 椎葉邦人, 品田卓郎, 田邊潤, 今泉孝敬, 畑 典武	PMX-DHP療法の実用症例, 導入時期についての検討	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
小野寺英貴1), 竹田晋浩, 寺嶋克幸1), 赤田信二, 中西一浩1), 金 徹1), 佐藤直樹, 本郷 卓, 田中啓治, 坂本篤裕1) (1)麻酔科学)	ICUにおける非侵襲的陽圧換気(NPPV)とMRSA発現症例の推移	第33回日本集中治療医学会学術集会	2006 3
宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木 元, 加藤浩司, 太良修平, 高野照夫, 水野博司1), 多川政弘2), 工藤圭介2), 田畑泰彦3) (1)形成外科学, 2)日本獣医畜産大学獣医外科, 3)京都大学再生医科学研究所)	重症難治性虚血肢に対する総合的治療戦略: 骨髄幹細胞及びbDDS徐放化蛋白による血管新生療法と医療用ウジ治療	第4回日本フットケア学会学術集会	2006 3
高木 元, 高木郁代, 荒川正行, 佐藤直樹, 安武正弘, 設楽雄二郎, 麻生定光, 太田成男, 宮本正章, 高野照夫	Bcl-2 familyによる細胞死抑制心筋再生治療	第5回日本再生医療学会総会	2006 3
大塚智之, 高橋直人, 今城俊浩, 南 史朗, 宗像一雄	CA125の異常高値を示したBasedow病クリーゼの1例	第6回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会	2006 3
Fukuma N, Ushijima A, Manabe H, Kato K, Kato Y, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Honma H, Kishida H, Takano T	Alteration of Blood Pressure Response to Exercise Stress through Baroreflex Mechanism as a Possible Mechanism of Hypertension	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
Hata N1), Seino Y1), Tsutamoto T1), Kaneko N1), Hiramitsu S1), Yoshikawa T1), Yokoyama H1), Tanaka K1), Mizuno K, Nejima J1), Kinoshita M1) (1)PROTECT(Prospective Trial of Cardioprotective Effect of Carperitide Treatment) Study)	Effect of Carperitide on Cardiorenal Protection and Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure:PROTECT Study	第70回日本循環器学会総会学術集会	2006 3
Hayashi M, Kobayashi Y, Taniguchi H, Horie T, Hirasawa Y, Abe J, Iwasaki Y, Morita N, Maruyama M, Miyauchi Y, Ohmura K, Ohara T, Satoh N, Tanala K, Katoh T, Takano T	Intra-fascicular Reentrant Ventricular Tachycardia Originating from Left Posterior Purkinje Fibers after Myocardial Infarction	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Hirasawa Y, Inakagomi A, Kobayashi Y, Murata H, Yamamoto T, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Taniguchi H, Horie T, Zyodogawa K, Ziwasaki Y, Morita N, Hayashi M, Maruyama M, Miyauchi Y, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Takano T	Amiodarone Attenuates Monocyte Chemokine Production and Improves Cardiac Function in Patients with Idiopathic Dilated Cardiomyopathy and Ventricular Tachycardia	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Inami S, Yamamoto M, Kimata N, Tomita K, Ogawa B, Murakami D, Tajika K, Tokuyama K, Okamatsu K, Seimiya K, Takano M, Ohba T, Ohno N, Nomura A, Sakai S, Okumura S	C-Reactive Protein May Be Absorbed Through Yellow Plaque and Lead to the Formation of Vulnerable Plaque	第70回日本循環器学会総会学術集会	2006 3
Iwasaki Y, Yamashita T1), Sekiguchi A1), Kato T1), Tsuneda T1), Kobayashi Y, Katoh T, Takano T (1)The Cardiovascular Institute)	Arrhythmogenic Substrates of Atrial Fibrillation in Hypertension	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Kato Y, Fukuma N, Miura K, Ushijima A, Manabe H, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T	Relation of Hypercapnic Chemosensitivity to Lowering PaCO ₂ during Exercise in Patients with Chronic Heart Failure	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Maruyama M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Ueno A, Tateoka T, Taniguchi H, Horie T, Hirasawa Y, Abe J, Morita N, Iwasaki Y, Hayashi M, Ohara T, Yashima M, Hirayama Y, Katoh T, Takano T, Miyamoto S1), Tadera T1), Ino I T, Atarashi H 1) (1)多摩永山病院内科)	Mapping-guided Ablation of the Cavotricuspid Isthmus:A Novel Simplified Approach for Radiofrequency Catheter Ablation of Isthmus-dependent Atrial Flutter	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Miyauchi Y, Kobayashi Y, Nitta T1), Maruyama M, Iwasaki Y, Horie T, Taniguchi H, Ueno A, Tateoka K, Okazaki R, Hayashi M, Ishii Y1), Katoh T, Takano T (1)Department of Surgery II)	The Coronary Sinus Musculature as a Critical Isthmus of Macroreentrant Atrial Tachycardia Occurring in Patients after Surgery to Atrial Fibrillation	第70回記念日本循環器学会・総会・学術集会	2006 3
Munakata R1), Nakagomi A1), Tokita Y1), Yamamoto T, Takano H, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Atarashi H1), Takano T (1)Department of Cardiology, Tama-nagayama Hospital)	Metabolic Syndrome Increases Atherosclerotic Plaque Burden and Cardiac Events Associated with Inflammation in Patients with Acute Coronary Syndromes	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Muramatsu T1), Suzuki T2), Terashima M2), Akasaka T2), Hayashi T3), Mizuno K, Nakamura M4), Nakamura S4), Takayama T5), Yoshikawa J6), Yamaguchi T2) (1)Kawasaki Social Insurance Hospital, 2)Toranomon Hospital, 3)Kinki University School of Medicine, 4)Toho University Ohashi Medical Center, 5)Nihon University Itabashi Hospital, 6)Osaka City University Medical School Hospital)	Safety and Feasibility of a Novel Intravascular Optical Coherence Tomography Image Wire System in a Clinical Setting-Japanese Multicenter Study	第70回日本循環器学会総会学術集会	2006 3
Nakagomi A1), Munakata R1), Tokita Y1), Yamamoto E, Kamiya M, Yamamoto T, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Kusama Y1), Takayama M, Atarashi H1), Takano T (1)Department of Cardiology, Tama-nagayama Hospital)	Statin Therapy Reduces Atherosclerotic Plaque Burden and Improves Prognosis in Patients with Acute Coronary Syndromes	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Nakagomi A1), Seino Y, Endoh Y, Okazaki R, Hirasawa Y, Iwasaki Y, Aoki S, Kusama Y1), Atarashi H1), Takano T (1)Department of Cardiology, Tama-nagayama Hospital)	Upregulation of Monocyte Chemokine Production by C-Reactive Protein Contributes to the Exacerbation of Chronic Heart Failure	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Ogano M, Iwasaki Y, Yamamoto T, Inami T, Aoki A, Morita N, Takano H, Takayama M, Takano T	Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation Restores Large vWF Multimer Deficit in Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Ogata K, Shinoda A, Okada K, Satoh W, Matsumoto S, Tadera T, Kusama Y, Atarashi H	Importance of RAS Inhibition in the Management of Paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients with Metabolic Syndrome	第70回日本循環器学会総会・学術集会	2006 3

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
Ohno N, Kawase A1), Hayashi H1), Lin SF1), Chen Peng-Sheng1), Hrayr SK1), Takano T2) (1)Medical Center and David Geffen School of Medicine at UCLA, 2)First Dep. Of Internal Medicine)	Spontaneous Atrial Fibrillation Initiated by Early Afterdepolarization-mediated Triggered Activity in the Aged Atria during Glycolytic Inhibition	第70回日本循環器学会総会学術集会	2006 3
Okada K, Kurita A1), Horiguchi Y1), Takase B2), Kusama Y, Atarashi H (1)Sanai Hospital, 2)National Defense Medical College Research Institute)	Music Therapy is Useful for Cardiac Autonomic Nerve Functions in Octogenarian Patients With Cerebral Vascular Disorders, Dementia and Heart Failure	第70回日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Okamatsu K, Inami S, Yokoyama S1), Takano M, Seimiya K, Ohba T, Ishibashi F, Hata N1), Mizuno Kyoichi (1)Chiba Hokusoh Hospital CCU)	Comparison between Culprit and Nonculprit Lesions in Patients with Multiple Plaque Ruptures and Acute Coronary Syndrome	第70回日本循環器学会総会学術集会	2006 3
Okumura S1), Yamamoto M1), Kimata N1), Tomita K1), Ogawa B1), Murakami D1), Tajika K1), Tokuyama K1), Imai S1), Seimiya K1), Takano M1), Ohba T1), Ohno N1), Nomura A1), Mizuno K1), Takano T, Tsunematu T2), Ishikawa Y2) (1)Department of Cardiology, Chiba Hokusoh Hospital, 2)Department of Physiology and Medicine, Yokohama City University School of Medicine)	Type5 Adenylyl Cyclase Hampers Desensitization of cAMP Signal to Attenuate Akt Signal and Myocyte Viability in the Heart	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Seino Y1), Tsutamoto T1), Hata N1), Kaneko N1), Hiramitsu S1), Yoshikawa T1), Yokoyama H1), Tanaka K1), Takagi G1), Asai K1), Mizuno K1), Nejima J1), Kinoshita M1) (1)(Prospective Trial of Cardioprotective Effect of Carperitide Treatment)Study Group)	Effect of Carperitide Treatment on Cardio-Renal Biomarkers in Patients with Acute Decompensated Heart Failure: Sub-analyses of the PROTECT Study	第70回日本循環器学会総会学術集会	2006 3
Setsuta K1), Takaki M2), Arao M2), Ogawa T, Seino Y, Takano T (1)Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 2)Department of Cardiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital)	Risk Stratification Using C-Reactive Protein and Cardiac Troponin T in Patients with Non-Ischemic Chronic Heart Failure	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Sugaya J1), Fukuma N, Kato K, Saito K1), Kato Y, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Honma H, Kishida H, Takano T (1)Physiological Examination Center)	Increment in Oxidative Stress Relates to Type A But Not Depression Score in Patients with Mild Myocardial Infarction	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Tajika K, Ogawa B, Murakami D, Tokuyama K, Inami S, Takano M, Seimiya K, Ohno N, Okamatsu K, Ohba T, Nomura A, Okumura S, Mizuno K, Kotani K1) (1)Daiichi Kagaku Yakuhin)	Malondialdehyde-modified LDL (MDA-LDL) is a Novel Marker as Instability of Coronary Plaque: Angioscopic Analysis	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Takagi G, Takagi I, Arakawa M1), Satoh N2), Yasutake M3), Tara S, Shidara Y, Asoh S1), Ohta S1), Miyamoto M, Takano T (1)Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Science, 2)Coronary Care Unit, 3)2nd Department of Pathology, Graduate School of Medicine, Tokyo Women's Medical University)	Novel Anti-Cell Death Protein (FNK) Therapy Preserves Myocardium Through Angiogenesis Mechanism After Myocardial Infarction in Swine	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Takagi I, Takagi G, Yasutake M, Takano H, Katoh K1), Miyamoto M, Takano T (1)Coronary Care Unit)	Improvement of Endothelial Dysfunction Indicated Early Phase Recovery after Bone Marrow Vascular Regenerative Therapy in Human	第70回日本記念循環器学会総会・学術集会	2006 3
Takahashi N, Yamamoto A1), Tezuka S, Hanaoka D, Ishikawa M, Takenaga K, Amitani K, Yamaguchi T, Uchida T, Hoshino K, Ohsaka M2), Munakata K (1)Department of Radiology, 2nd Hospital,, 2)Institute of Gerontology, 2nd Hospital)	The Role of Diastolic Dyssynchrony Assessed by a Novel Program "cardioGRAF" for Tc99m-sestamibi-gated-SPECT in the Development of Congestive Heart Failure	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Takano H, Takayama M, Kikuchi A, Kitamura M, Kosugi M, Shirakabe A, Nakamura S, Sasaki A, Yamamoto E, Kawashima S, Fujita N, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takano T	Impaired Coronary Microcirculation is a Predictor of Cardiac Events in Patients with Non-Ischemic Cardiomyopathy	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Takayama M, Shirakabe A, Ohno T, Fujimoto H, Fujita N, Satoh N, Kawashima S, Kimura Y, Takano H, Asai K, Takano T	Current Composite Therapeutic Strategy for Chronic Cardiac Failure Due to Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3

学会発表

演者名、所属名	演題名	学会名	発表年月
Tokita Y, Kusama Y, Shinoda A, Suzuki H, Okada K, Munakata R, Fukushima M, Ishii K, Yoshida H, Satoh W, Matsumoto S, Ogata K, Kodani E, Tadera T, Nakagomi A, Ibuki C, Atarashi H, Takano T	Utility of Rapid D-dimer Measurement for Screening of Acute Cardiovascular Disease in Emergency Setting	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Ushijima A, Fukuma N, Manabe H, Kato K, Kato Y, Aisu N, Tsuchida T, Oikawa K, Mabuchi K, Takano T	Impairment of Sympathetic Excitability through Baroreflex Mechanism as a Cause of Limitation of Exercise Tolerance	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3
Yamanaka H1), Kishida H, Suzuki T2), Takano T (1)Department of Health Care, 2nd Hospital, 2)Medical Office, Keio Corporation)	Relationship between the Mismatch of T1-201 and I-123-BMIPP Myocardial SPECT and Autonomic Function in Patients with Acute Myocardial Infarction	第70回記念日本循環器学会総会・学術集会	2006 3

編集後記

今年は例年になく退局者が多く、人事が行きづまり、ついに北村山公立病院への派遣人数を5人から4人へ減らせざるを得なくなるなど、人事面では最も厳しい1年となりました。研修医制度も4年目に入り多くの問題点を浮き彫りにしつつ、定着してきた感があります。若い医師の大学病院離れ、内科離れが加速する中、主任教授交代時期は入局者が少ないというジンクスが巷間ささやかれておりましたが、来年度は8名（千駄木6名、武蔵小杉2名）の入局が決まりました。このように多くの入局者を今後も引き続き迎えることができれば、付属病院、関連病院の深刻な人手不足は少しずつ解消されていくのではないのでしょうか。

お陰様で今年も雑誌げんてんを刊行することができました。ご多忙中にもかかわらず、原稿をお寄せくださいました先生方、原稿整理をしてくださった秘書の吉田伸子さんはじめ多くの方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成18年12月8日 第一内科医局長 平山悦之